

バージョン 10 リリース 1
2017 年 10 月 13 日

IBM Marketing Platform アッ プグレード・ガイド

IBM

注記

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、95 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、IBM Marketing Platform バージョン 10、リリース 1、モディフィケーション 0、および新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： Version 10 Release 1
13 October 2017
IBM Marketing Platform Upgrade Guide

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： トランスレーション・サービス・センター

© Copyright IBM Corporation 1999, 2017.

目次

第 1 章 アップグレードの概要	1	WebSphere に Marketing Platform を配置する際の ガイドライン	60
アップグレード・ロードマップ	1	Marketing Platform のインストール済み環境の検証	62
インストーラーの機能	3	第 11 章 配置後の Marketing Platform の構成	65
インストールのモード	4	SSL 環境に必要な追加の構成	65
サンプル応答ファイル	5	デフォルト・パスワード設定	65
Marketing Platform の資料とヘルプ	5	第 12 章 Marketing Platform ユーティ リティー	67
第 2 章 Marketing Platform のアップグ レードの計画	7	追加マシンでの Marketing Platform ユーティリテ ィーのセットアップ	69
前提条件	7	Marketing Platform ユーティリティー	70
Marketing Platform インストール・ワークシート	9	alertConfigTool	70
全 IBM Marketing Software 製品に関するアップグ レード前提条件	11	configTool	70
Oracle または DB2 の自動コミット要件	12	datafilteringScriptTool	75
ユーザー定義のグループ名および役割名の変更	12	encryptPasswords	76
スケジューラーのタイム・ゾーンのサポート	12	partitionTool	78
Digital Analytics ダッシュボード・ポートレット	13	populateDb	80
corporatetheme.css ファイルおよびブランド・イメ ージのバックアップ	13	restoreAccess	81
Marketing Platform のアップグレードのシナリオ	13	scheduler_console_client	83
アップグレード・インストールが失敗した場合のレ ジストリー・ファイルの修正	15	第 13 章 Marketing Platform SQL スク リプト	87
第 3 章 自動マイグレーションによるバー ジョン 10.0 以上からのアップグレード	17	ManagerSchema_DeleteAll.sql	87
第 4 章 手動マイグレーションによるバー ジョン 8.6.0 からのアップグレード	19	ManagerSchema_PurgeDataFiltering.sql	88
第 5 章 手動マイグレーションによるバー ジョン 9.0 からのアップグレード	29	システム・テーブルを作成する SQL スクリプト	88
第 6 章 手動マイグレーションによるバー ジョン 9.1.0 からのアップグレード	37	ManagerSchema_DropAll.sql	89
第 7 章 手動マイグレーションによるバー ジョン 9.1.1 からのアップグレード	43	第 14 章 Marketing Platform のアンイ ンストール	91
第 8 章 手動マイグレーションによるバー ジョン 9.1.2 からのアップグレード	49	IBM 技術サポートへのお問い合わせの前 に	93
第 9 章 手動マイグレーションによるバー ジョン 10.0.0 からのアップグレード	55	特記事項	95
第 10 章 Marketing Platform の配置	59	商標	97
WebLogic 上に Marketing Platform を配置する際 のガイドライン	59	プライバシー・ポリシーおよび利用条件に関する考 慮事項	97

第 1 章 アップグレードの概要

Marketing Platform のアップグレードは、Marketing Platform をアップグレード、構成、および配置すると完了します。Marketing Platform のアップグレード、構成、および配置に関する詳細情報は、「Marketing Platform アップグレード・ガイド」で参照できます。

『アップグレード・ロードマップ』セクションを使用すると、「Marketing Platform アップグレード・ガイド」の使用について幅広く理解することができます。

アップグレード・ロードマップ

アップグレード・ロードマップを使用して、Marketing Platform のインストールに必要な情報を素早く見つけることができます。

以下の表を使用して、Marketing Platform をインストールするために実行する必要のあるタスクに目を通しておくことができます。

表 1. Marketing Platform アップグレード・ロードマップ

トピック	情報
『第 1 章 アップグレードの概要』	このトピックには、以下の情報が含まれています。 <ul style="list-style-type: none">• 3 ページの『インストーラーの機能』• 4 ページの『インストールのモード』• 5 ページの『Marketing Platform の資料とヘルプ』
7 ページの『第 2 章 Marketing Platform のアップグレードの計画』	このトピックには、以下の情報が含まれています。 <ul style="list-style-type: none">• 7 ページの『前提条件』• 9 ページの『Marketing Platform インストール・ワークシート』• 11 ページの『全 IBM Marketing Software 製品に関するアップグレード前提条件』• 12 ページの『スケジューラーのタイム・ゾーンのサポート』• 13 ページの『corporatetheme.css ファイルおよびブランド・イメージのバックアップ』• 13 ページの『Marketing Platform のアップグレードのシナリオ』

表 1. Marketing Platform アップグレード・ロードマップ (続き)

トピック	情報
<p>17 ページの『第 3 章 自動マイグレーションによるバージョン 10.0 以上からのアップグレード』</p>	<p>自動マイグレーションによって Marketing Platform をバージョン 10.0 以上からアップグレードする方法の詳細を確認してください。</p> <p>重要: 10.0 より前のバージョンからアップグレードする場合は、まずバージョン 10.0 にアップグレードしてから、バージョン 10.1 にアップグレードする必要があります。バージョン 10.0 へのアップグレードについては、「IBM Marketing Platform 10.0 アップグレード・ガイド」を参照してください。</p>
<p>19 ページの『第 4 章 手動マイグレーションによるバージョン 8.6.0 からのアップグレード』 29 ページの『第 5 章 手動マイグレーションによるバージョン 9.0 からのアップグレード』 37 ページの『第 6 章 手動マイグレーションによるバージョン 9.1.0 からのアップグレード』 43 ページの『第 7 章 手動マイグレーションによるバージョン 9.1.1 からのアップグレード』 49 ページの『第 8 章 手動マイグレーションによるバージョン 9.1.2 からのアップグレード』 55 ページの『第 9 章 手動マイグレーションによるバージョン 10.0.0 からのアップグレード』</p>	<p>手動マイグレーションによって Marketing Platform をバージョン 8.6.0 以上からアップグレードする方法の詳細を確認してください。現在使用しているバージョンに対応する章の手順を使用してください。</p>
<p>59 ページの『第 10 章 Marketing Platform の配置』</p>	<p>このトピックには、以下の情報が含まれています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 59 ページの『WebLogic 上に Marketing Platform を配置する際のガイドライン』 • 60 ページの『WebSphere に Marketing Platform を配置する際のガイドライン』 • 62 ページの『Marketing Platform のインストール済み環境の検証』
<p>65 ページの『第 11 章 配置後の Marketing Platform の構成』</p>	<p>このトピックには、以下の情報が含まれています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 65 ページの『デフォルト・パスワード設定』

表 1. Marketing Platform アップグレード・ロードマップ (続き)

トピック	情報
67 ページの『第 12 章 Marketing Platform ユーティリティー』	<p>このトピックには、以下の情報が含まれています。</p> <ul style="list-style-type: none"> 69 ページの『追加マシンでの Marketing Platform ユーティリティーのセットアップ』 70 ページの『alertConfigTool』 70 ページの『configTool』 75 ページの『datafilteringScriptTool』 76 ページの『encryptPasswords』 78 ページの『partitionTool』 80 ページの『populateDb』 81 ページの『restoreAccess』 83 ページの『scheduler_console_client』
87 ページの『第 13 章 Marketing Platform SQL スクリプト』	<p>このトピックには、以下の情報が含まれています。</p> <ul style="list-style-type: none"> 87 ページの『ManagerSchema_DeleteAll.sql』 88 ページの『ManagerSchema_PurgeDataFiltering.sql』 88 ページの『システム・テーブルを作成する SQL スクリプト』 89 ページの『ManagerSchema_DropAll.sql』
91 ページの『第 14 章 Marketing Platform のアンインストール』	<p>このトピックには、Marketing Platform のアンインストール方法に関する情報が示されます。</p>

インストーラーの機能

Marketing Platform をインストールする際には、IBM® Marketing Software インストーラーを、Marketing Platform インストーラーと共に使用します。

IBM Marketing Software スイート・インストーラーは、インストール・プロセスの間に、個々の製品インストーラーを始動します。

Marketing Platform をインストールする際には、以下のガイドラインを使用してください。

- IBM Marketing Software インストーラーおよび Marketing Platform インストーラーが、Marketing Platform をインストールするサーバー上の同じディレクトリに入っていることを確認してください。複数のバージョンの Marketing Platform インストーラーが、IBM Marketing Software インストーラーと同じディレクトリに存在する場合、IBM Marketing Software インストーラーを実行

すると、インストール・ウィザードの「IBM Marketing Software 製品 (IBM Marketing Software Products)」画面には、Marketing Platform の最新のバージョンが表示されます。

- Marketing Platform のインストール直後にパッチのインストールを計画している場合、IBM Marketing Software および Marketing Platform インストーラーと同じディレクトリーにパッチ・インストーラーが入っていることを確認してください。

IBM Marketing Software は、デフォルトで以下のいずれかのディレクトリーにインストールされます。

- /IBM/IMS (UNIX の場合)
- C:\IBM\IMS (Windows の場合)

IBM Marketing Software 製品は、デフォルトで、*IBM_Marketing_Software_home* ディレクトリーのサブディレクトリーにインストールされます。例えば、Marketing Platform は、*IBM_Marketing_Software_home/Platform* ディレクトリーにインストールされます。

ただし、このディレクトリーはインストール時に変更できます。

インストールのモード

IBM Marketing Software スイート・インストーラーは、GUI モード、コンソール・モード、またはサイレント・モード (無人モードとも呼ぶ) のいずれかのモードで実行できます。Marketing Platform をインストールする際は要件に見合ったモードを選択してください。

アップグレードの場合は、初期インストール時に実行するタスクと同じ多くのタスクをインストーラーを使用して実行します。

GUI モード

グラフィカル・ユーザー・インターフェースを使用して Marketing Platform をインストールするには、Windows の GUI モード、または UNIX の X Window System モードを使用します。

コンソール・モード

コマンド・ライン・ウィンドウを使用して Marketing Platform をインストールするには、コンソール・モードを使用します。

注: コンソール・モードでインストーラー画面を正しく表示するには、UTF-8 文字エンコードをサポートするように端末ソフトウェアを構成してください。ANSI などその他の文字エンコードでは、テキストが正しくレンダリングされず、一部の情報が読み取れなくなります。

サイレント・モード

Marketing Platform を複数回インストールするには、サイレント・モード (無人モード) を使用します。サイレント・モードは、インストールに応答ファイルを使用し、インストール・プロセスの間にユーザー入力を必要としません。

注: クラスター化された Web アプリケーションやクラスター化されたリスナー環境では、サイレント・モードはアップグレード・インストールでサポートされていません。

サンプル応答ファイル

Marketing Platform のサイレント・インストールをセットアップするため、応答ファイルを作成する必要があります。応答ファイルを作成するには、サンプル応答ファイルを利用できます。サンプル応答ファイルは、インストーラーの ResponseFiles 圧縮アーカイブに含まれています。

次の表には、サンプル応答ファイルに関する情報が示されています。

表 2. サンプル応答ファイルの説明

サンプル応答ファイル	説明
installer.properties	IBM Marketing Software マスター・インストーラーのサンプル応答ファイル。
installer_product initials and product version number.properties	Marketing Platform マスター・インストーラーのサンプル応答ファイル。 例えば、installer_umpn.n.n.n.properties (ここで、n.n.n.n はバージョン番号) は、Marketing Platform インストーラーの応答ファイルです。
installer_report pack initials, product initials, and version number.properties	レポート・パック・インストーラーのサンプル応答ファイル。 例えば、installer_urpcn.n.n.n.properties (n.n.n.n はバージョン番号) は、Campaign レポート・パック・インストーラーの応答ファイルです。

Marketing Platform の資料とヘルプ

IBM Marketing Platform では、ユーザー、管理者、および開発者を対象とした資料とヘルプを用意しています。

表 3. 起動して稼働状態にする

タスク	資料
新機能、既知の問題、および回避策のリストを表示する	IBM Marketing Platform リリース・ノート
Marketing Platform データベースの構造について学習する	IBM Marketing Platform システム・テーブル
Marketing Platform をインストールまたはアップグレードし、Marketing Platform Web アプリケーションを配置する	以下のいずれかのガイド: <ul style="list-style-type: none"> IBM Marketing Platform インストール・ガイド IBM Marketing Platform アップグレード・ガイド
IBM Marketing Software に備わっている IBM Cognos® レポートを実装する	IBM Marketing Software Reports インストールおよび構成ガイド

表 4. Marketing Platform の構成と使用

タスク	資料
<ul style="list-style-type: none"> • IBM 製品の構成とセキュリティーの設定を調整する • LDAP などの外部システムと Web アクセス制御を統合する • SAML 2.0 ベースのフェデレーテッド認証またはシングル・サインオンを使用して、さまざまなアプリケーションにシングル・サインオンを実装する • ユーティリティーを実行して IBM 製品に対するメンテナンスを実行する • 監査イベントの追跡を構成して使用する • IBM Marketing Software オブジェクトの実行をスケジューリングする 	<p>IBM Marketing Platform 管理者ガイド</p>

表 5. ヘルプの取得

タスク	説明
オンライン・ヘルプを開く	<ol style="list-style-type: none"> 1. コンテキスト・ヘルプのトピックを表示するには、「ヘルプ」>「このページのヘルプ」を選択します。 2. オンライン・ヘルプ全体を見るには、「ヘルプ」>「製品資料」を選択し、Knowledge Center の IBM Marketing Platformのリンクをクリックします。 <p>オンラインのコンテキスト・ヘルプを表示するには、Web アクセスが必要です。オフライン資料として IBM Knowledge Center をローカルで利用する方法、およびインストールする方法について詳しくは、IBM サポートにお問い合わせください。</p>
PDF の取得	<p>以下のいずれかの方法に従います:</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「ヘルプ」>「製品資料」と選択して、Marketing Platform の PDF およびヘルプにアクセスします。 • 全製品の資料にアクセスするには、「ヘルプ」>「IBM Marketing Software のすべての資料 (All IBM Marketing Software Documentation)」を選択します。
IBM Knowledge Center	<p>IBM Knowledge Center にアクセスするには、「ヘルプ」>「この製品のサポート (Support for this product)」を選択します。</p>
サポートを受ける	<p>http://www.ibm.com/support に移動して IBM サポート・ポータルにアクセスします。</p>

第 2 章 Marketing Platform のアップグレードの計画

Marketing Platform の現行バージョンをアップグレードして、最新の機能を備えた状態に更新することができます。

前提条件

IBM Marketing Software 製品をインストールまたはアップグレードするには、その前に、ご使用のコンピューターがすべてのソフトウェアおよびハードウェアの前提条件を満たしていることを確認する必要があります。

システム要件

システム要件について詳しくは、「*Recommended Software Environments and Minimum System Requirements*」ガイドを参照してください。

Opportunity Detect が DB2 データベースに接続するには、DB2 インストール済み環境でクライアント・マシン上の `/home/db2inst1/include` ディレクトリー内にインストール・ヘッダー・ファイルが含まれている必要があります。インストール済み環境にヘッダー・ファイルを組み込むには、DB2 のインストール時に「カスタム・インストール (**Custom Install**)」オプションを選択し、「基本アプリケーション開発ツール」機能を選択します。

DB2 要件

Opportunity Detect が DB2 データベースに接続するには、DB2 インストール済み環境でクライアント・マシン上の `home/db2inst1/include` ディレクトリー内にインストール・ヘッダー・ファイルが含まれている必要があります。インストール済み環境にヘッダー・ファイルを組み込むには、DB2 のインストール時に「カスタム・インストール (**Custom Install**)」オプションを選択し、「基本アプリケーション開発ツール」機能を選択します。

ネットワーク・ドメイン要件

スイートとしてインストールされる IBM Marketing Software 製品は同じネットワーク・ドメインにインストールする必要があります。これは、クロスサイト・スク립ティングで生じ得るセキュリティー・リスクを制限することを目的としたブラウザ制限に準拠するためです。

JVM 要件

スイート内の IBM Marketing Software アプリケーションは、専用の Java™ 仮想マシン (JVM) に配置しなければなりません。IBM Marketing Software 製品は、Web アプリケーション・サーバーによって使用される JVM をカスタマイズします。JVM に関連するエラーが発生する場合、IBM Marketing Software 製品専用の Oracle WebLogic または WebSphere®ドメインを作成する必要があります。

知識要件

IBM Marketing Software 製品をインストールするには、製品をインストールする環境全般に関する知識が必要です。この知識には、オペレーティング・システム、データベース、および Web アプリケーション・サーバーに関する知識が含まれます。

インターネット・ブラウザ設定

ご使用のインターネット・ブラウザが、以下の設定に準拠していることを確認してください。

- ブラウザーで Web ページをキャッシュしない。
- ブラウザーはポップアップ・ウィンドウをブロックしてはなりません。

アクセス権限

インストール作業を完了するため、以下のネットワーク権限を保持していることを確認してください。

- 必要なすべてのデータベースに対する管理権限。
- Web アプリケーション・サーバーおよび IBM Marketing Software コンポーネントを実行するために使用するオペレーティング・システム・アカウントの関連ディレクトリーおよびサブディレクトリーに対する読み取りおよび書き込みアクセス権限
- 編集する必要があるすべてのファイルに対する書き込み権限
- インストール・ディレクトリーやバックアップ・ディレクトリー (アップグレードを行う場合) など、ファイルを保存する必要があるすべてのディレクトリーに対する書き込み権限
- インストーラーを実行するための適切な読み取り、書き込み、および実行権限

Web アプリケーション・サーバーの管理パスワードを保持していることを確認してください。

UNIX の場合、IBM 製品のすべてのインストーラー・ファイルはフル権限 (例えば、`rwxr-xr-x`) が必要です。

JAVA_HOME 環境変数

IBM Marketing Software 製品をインストールするコンピューターに **JAVA_HOME** 環境変数が定義されている場合、サポートされる JRE のバージョンがこの変数で指定されていることを確認してください。システム要件については、「*IBM Marketing Software Recommended Software Environments and Minimum System Requirements*」ガイドを参照してください。

JAVA_HOME 環境変数が正しくない JRE を指している場合、IBM Marketing Software インストーラーを実行する前に、その **JAVA_HOME** 変数をクリアする必要があります。

以下のいずれかの方法により、**JAVA_HOME** 環境変数をクリアできます。

- Windows: コマンド・ウィンドウで、**set JAVA_HOME=** (空のままにする) と入力して、**Enter** キーを押します。
- UNIX: 端末で、**export JAVA_HOME=** (空のままにする) と入力して、**Enter** キーを押します。

IBM Marketing Software インストーラーは、IBM Marketing Software インストール環境の最上位ディレクトリーに JRE をインストールします。個々の IBM Marketing Software アプリケーションのインストーラーは、JRE をインストールしません。その代わりに、IBM Marketing Software インストーラーによってインストールされた JRE の場所を指定します。すべてのインストールが完了した後に環境変数を再設定することができます。

サポートされる JRE について詳しくは、「IBM Marketing Software 推奨されるソフトウェア環境および最小システム要件」ガイドを参照してください。

Marketing Platform インストール・ワークシート

Marketing Platform のインストール・ワークシートを使用して、Marketing Platform データベースに関する情報と、Marketing Platform のインストールに必要なその他の IBM Marketing Software 製品に関する情報を収集してください。

次の表を使用して、Marketing Platform システム・テーブルを含んだデータベースに関する情報を収集します。

表 6. データベースに関する情報

フィールド	メモ
データベース・タイプ	
データベース名	
データベース・アカウント・ユーザー名	
データベース・アカウント・パスワード	
JNDI 名	UnicaPlatformDS
ODBC 名	

Marketing Platform データベースのチェックリスト

各 IBM Marketing Software 製品のインストール・ウィザードは、製品を登録するために、Marketing Platform システム・テーブル・データベースと通信可能でなければなりません。インストーラーを実行するたびに、Marketing Platform システム・テーブル・データベースのための以下のデータベース接続情報を入力する必要があります。

- データベース・タイプ
- JDBC 接続 URL
- データベース・ホスト名
- データベースのポート
- データベースの名前またはスキーマ ID
- データベース・アカウントのユーザー名とパスワード

Web アプリケーション・サーバーでの IBM Marketing Platform の配置に関するチェックリスト

Marketing Platform を配置する前に、以下の情報を入手してください。

- プロトコル: HTTP または HTTPS (Web アプリケーション・サーバーで SSL が実装されている場合)。
- ホスト: Marketing Platform の配置先となるマシンの名前。
- ポート: Web アプリケーション・サーバーが listen するポート。
- ドメイン・ネーム: IBM 製品がインストールされる各マシンの会社のドメイン。例えば `mycompany.com`。すべての IBM 製品は同じ会社のドメインにインストールされる必要があり、ドメイン・ネームをすべて小文字で入力する必要があります。

ドメイン・ネーム項目で不一致がある場合、Marketing Platform の機能を使用したり、製品間でナビゲートしたりするときに問題が生じる可能性があります。製品の配置後にドメイン・ネームを変更できます。そうするには、ログインして、「設定」>「構成」ページの製品ナビゲーション・カテゴリで該当する構成プロパティの値を変更します。

Marketing Platform ユーティリティの使用可能化に関するチェックリスト

Marketing Platform ユーティリティの使用を予定している場合、Marketing Platform のインストールを始める前に、以下の JDBC 接続情報を入手してください。

- JRE のパス。デフォルト値は、インストーラーによって IBM インストール・ディレクトリの下に配置される JRE バージョン 1.7 のパスです。

このデフォルトを受け入れることも、別のパスを指定することもできます。別のパスを指定する場合は Sun JRE バージョン 1.7 を指す必要があります。

- JDBC ドライバー・クラス。これは、インストーラーで指定したデータベース・タイプに基づき、インストーラーによって自動的に提供されます。
- JDBC 接続 URL。インストーラーから、ホスト名、データベース名、およびポートなどの基本的な構文が提供されます。追加のパラメーターを加えることにより、URL をカスタマイズすることができます。
- システム上の JDBC ドライバー・クラスパス。

Web コンポーネントに関する情報

Web アプリケーション・サーバーに配置した Web コンポーネントを持つすべての IBM Marketing Software 製品に関する以下の情報を取得します。

- Web アプリケーション・サーバーがインストールされるシステムの名前。セットアップしている IBM Marketing Software 環境によっては、1 つまたは複数の Web アプリケーション・サーバーを持つ場合があります。
- アプリケーション・サーバーが listen するポート。SSL の実装を計画している場合は、SSL ポートを入手します。
- 配置システムのネットワーク・ドメイン。例えば `mycompany.com`。

IBM サイト ID

ご使用の製品インストーラーの「インストールする国」画面にリストされているいずれかの国の IBM Marketing Software 製品をインストールしている場合、示されるスペースに IBM サイト ID を入力する必要があります。IBM サイト ID は、以下のいずれかの文書で見つけることができます。

- IBM ウェルカム・レター
- 技術サポートのウェルカム・レター
- ライセンス証書レター
- ソフトウェア購入時に送付されるその他の通信

IBM は、インストールしたソフトウェアにより提供されるデータを、お客様がどのように弊社の製品を使用しているかをより深く理解し、カスタマー・サポートを向上するために使用することがあります。収集されるデータには、個人を特定する情報はまったく含まれません。そのような情報の収集を希望されない場合は、以下のアクションを実行してください。

1. Marketing Platform がインストールされた後、管理特権を持つユーザーとして Marketing Platform にログオンします。
2. 「設定」>「構成」と移動して、「Platform」カテゴリーの下の「ページのタグ付けを無効にする」プロパティを True に設定します。

全 IBM Marketing Software 製品に関するアップグレード前提条件

Marketing Platform をアップグレードする際には、確実にシームレスにアップグレードを遂行するため、事前にすべての権限、オペレーティング・システム、および知識に関する要件を適切に満たしておく必要があります。

以前のインストールで生成された応答ファイルの削除

8.6.0 より前のバージョンからアップグレードしている場合、前の Marketing Platform インストールによって生成された応答ファイルを削除する必要があります。古い応答ファイルには、8.6.0 以降のインストーラーとの互換性がありません。

古い応答ファイルを削除しないと、インストーラーを実行するときにインストーラー・フィールドに正しくないデータが事前に入力されていたり、一部のファイルがインストーラーによってインストールされなかったり、構成ステップがスキップされたりする可能性があります。

IBM 応答ファイルの名前は `installer.properties` になります。

各製品の応答ファイルの名前は `installer_productversion.properties` になります。

インストーラーは、インストール時にユーザーが指定したディレクトリー内に応答ファイルを作成します。デフォルトの場所は、ユーザーのホーム・ディレクトリーです。

UNIX のユーザー・アカウント要件

UNIX では、製品をインストールしたユーザー・アカウントでアップグレードを実行する必要があります。そうしないと、インストーラーは前のインストールの検出に失敗します。

32 ビットから 64 ビットへのバージョンアップ

Marketing Platform の 32 ビット・バージョンから 64 ビット・バージョンに移行している場合は、必ず以下のタスクを実行してください。

- 製品データ・ソースのデータベース・クライアント・ライブラリーが 64 ビットであることを確認する
- すべての関連ライブラリー・パス (例えば、開始スクリプトまたは環境スクリプト) が、データベース・ドライバーの 64 ビット・バージョンを正しく参照していることを確認する。

Oracle または DB2 の自動コミット要件

Marketing Platform システム・テーブルが Oracle または DB2[®] にある場合、環境がオープンされる度に自動コミット・モードを有効にする必要があります。

Oracle または DB2 の資料の説明を参照してください。

ユーザー定義のグループ名および役割名の変更

Campaign をアップグレードするには、その前に、Marketing Platform をアップグレードする必要があります。Marketing Platform アップグレード時の問題を回避するため、ユーザーが作成するグループおよび役割の名前は、Marketing Platform によって定義されるグループや役割の名前と異ならなければなりません。

これらの名前が同じである場合は、ユーザーが作成したグループや役割の名前を、アップグレード前に変更する必要があります。例えば、Admin という名前のグループまたは役割を作成した場合、Admin は Campaign で使用されている名前であるため、作成した名前を変更する必要があります。

スケジューラーのタイム・ゾーンのサポート

Marketing Platform では、スケジューラーを使用して、ユーザーの定義した間隔でプロセスを実行するように構成することができます。スケジューラーを使用すると、Campaign フローチャートの実行、Contact Optimization の最適化セッションおよび最適化後のフローチャートの実行、eMessage メール配信をスケジュールすることができます。

スケジューラーでタイム・ゾーン・サポートを利用するには、必要に応じてスケジュール済みのタスクを編集し、新規タイム・ゾーンを選択します。スケジューラーの使用について詳しくは、「IBM Marketing Platform 管理者ガイド」を参照してください。

Digital Analytics ダッシュボード・ポートレット

カスタム Digital Analytics ポートレットを組み込んだダッシュボードがある場合は、アップグレードの完了後にそれらのポートレットを再作成する必要があります。

corporatetheme.css ファイルおよびブランド・イメージのバックアップ このタスクについて

「*IBM Marketing Platform* 管理者ガイド」の説明に従って IBM フレーム・セットを再ブランド化した場合、Marketing Platform をアップグレードする前に、変更したファイルをバックアップする必要があります。アップグレード操作の実行後、Marketing Platform の新規バージョンを配置する前に、ファイルを復元する必要があります。

通常、変更が必要なのは corporatetheme.css ファイルとブランド・イメージです。corporatetheme.css ファイルおよびブランド・イメージは、css¥theme ディレクトリ内の unica.war ファイル内にあります。

手順

以下のステップを実行して、corporatetheme.css ファイルおよびブランド・イメージをバックアップします。

1. Marketing Platform のアップグレード手順を開始する前に、unica.war ファイルのバックアップ・コピーを作成します。
2. unica.war ファイルを解凍し、corporatetheme.css ファイルおよびブランド・イメージのコピーを取り分けます。
3. Marketing Platform のアップグレードを続行しますが、Marketing Platform は配置しないでください。
4. 新しい unica.war ファイルを解凍し、既存のイメージおよび corporatetheme.css ファイルをバックアップしたバージョンで上書きします。
5. 新しい unica.war ファイルを再び WAR で圧縮し、Marketing Platform を配置します。

次のタスク

再ブランド化について詳しくは、「*IBM Marketing Platform* 管理者ガイド」を参照してください。

Marketing Platform のアップグレードのシナリオ

Marketing Platform の現行バージョンに適用されるガイドラインを理解した上で、Marketing Platform のインストール済み環境をアップグレードします。

Marketing Platform をアップグレードするために、次の表のガイドラインに従います。

表 7. Marketing Platform のアップグレードのシナリオ

Marketing Platform のソース・バージョン	アップグレード・パス
7.x、8.0.x、8.1.x、8.2.x、 および 8.5.x	<p>直接のアップグレードはサポートされていません。以下のステップを実行して、Marketing Platform バージョン 10.1 にアップグレードしてください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現行バージョンからバージョン 8.6.0 にアップグレードします。 バージョン 8.6.0 へのアップグレードを実行するには、ソフトウェアを入手し、そのバージョンのインストール・ガイドに示される指示に従ってください。 注: 9.1.1 より前のバージョンには、別個のアップグレード・ガイドがありませんでした。アップグレードの手順は、インストール・ガイドの中に含まれていました。 2. バージョン 8.6.0 からバージョン 10.0 にアップグレードします。 バージョン 10.0 へのアップグレードを実行するには、ソフトウェアを入手し、「IBM Marketing Platform 10.0 アップグレード・ガイド」の手順に従ってください。 3. バージョン 10.0.0 からバージョン 10.1.0 にアップグレードします。 バージョン 10.1 へのアップグレードを実行するには、ソフトウェアを入手し、このアップグレード・ガイドの手順に従ってください。

表 7. Marketing Platform のアップグレードのシナリオ (続き)

Marketing Platform のソース・バージョン	アップグレード・パス
8.6.x 以上	<p>以下のいずれかのトピックに記述された手順に従って、Marketing Platform のインストール済み環境をアップグレードします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Marketing Platform アップグレード・インストーラーにより、アップグレードに必要なデータ・マイグレーションを自動的に完了できます。インストーラーでデータベース内にシステム・テーブルを自動作成する場合は、以下の手順を実行します。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 10.0 より前のバージョンからアップグレードする場合は、まずバージョン 10.0 にアップグレードしてから、バージョン 10.1 にアップグレードする必要があります。バージョン 10.0 へのアップグレードについては、「IBM Marketing Platform 10.0 アップグレード・ガイド」を参照してください。 2. バージョン 10.1 にアップグレードします。詳しくは、17 ページの『第 3 章 自動マイグレーションによるバージョン 10.0 以上からのアップグレード』を参照してください。 • 組織のポリシーで自動的なデータ・マイグレーションが許可されていない場合は、アップグレード手順を手動で実行する必要があります。データベース内にシステム・テーブルを手動で作成する場合は、以下のいずれかトピックを参照してください。 <ul style="list-style-type: none"> - 19 ページの『第 4 章 手動マイグレーションによるバージョン 8.6.0 からのアップグレード』 - 29 ページの『第 5 章 手動マイグレーションによるバージョン 9.0 からのアップグレード』 - 37 ページの『第 6 章 手動マイグレーションによるバージョン 9.1.0 からのアップグレード』 - 43 ページの『第 7 章 手動マイグレーションによるバージョン 9.1.1 からのアップグレード』 - 49 ページの『第 8 章 手動マイグレーションによるバージョン 9.1.2 からのアップグレード』 - 55 ページの『第 9 章 手動マイグレーションによるバージョン 10.0.0 からのアップグレード』

アップグレード・インストーラーが失敗した場合のレジストリー・ファイルの修正

インストール済み製品の基本バージョンをインストーラーが検出できなかったためにインストールが失敗した場合、ここに説明されている方法でレジストリー・ファイルを修正できます。

このタスクについて

.com.zerog.registry.xml という名前の InstallAnywhere Global レジストリー・ファイルは、IBM Marketing Software 製品のインストール時に作成されます。このレジストリー・ファイルは、そのサーバー上にインストールされているすべての

IBM Marketing Software 製品 (その各機能とコンポーネントを含む) をトラッキングします。

手順

1. `.com.zerog.registry.xml` ファイルを見つけます。

製品をインストールするサーバーに応じて、`.com.zerog.registry.xml` ファイルは次のいずれかの場所にあります。

- Windows サーバーの場合、ファイルは `Program Files/Zero G Registry` フォルダーにあります。

Zero G Registry は非表示のディレクトリーです。非表示のファイルとフォルダーを表示する設定を有効にする必要があります。

- UNIX システムの場合、ファイルは以下のいずれかのディレクトリーにあります。

- root ユーザー: `/var/`
- root ユーザー以外: `$HOME/`

- Mac OSX サーバーの場合、ファイルは `/library/preferences/` フォルダーにあります。

2. ファイルのバックアップ・コピーを作成します。
3. ファイルを編集して、インストール済み製品のバージョンを参照するすべての項目を変更します。

例えば、次に示すのはファイル内の IBM Campaign バージョン 8.6.0.3 に対応する部分です。

```
<product name="Campaign" id="dd6f88e0-1ef1-11b2-accf-c518be47c366"
version=" 8.6.0.3 " copyright="2013" info_url="" support_url=""
location="<IBM_Unica_Home>\Campaign" last_modified="2013-07-25 15:34:01">
```

この例では、`version=" 8.6.0.3 "` を参照するすべての項目を基本バージョン (このケースでは 8.6.0.0) に変更します。

第 3 章 自動マイグレーションによるバージョン 10.0 以上からのアップグレード

自動マイグレーションでは、インストーラーが SQL スクリプトを実行し、Marketing Platform システム・テーブルをアップグレードするために必要な構成プロパティを挿入することができます。本書の他の場所で説明されているように、企業のポリシーでシステム・テーブル・データベースの自動更新が許可されない場合は、手動によるマイグレーションを使用する必要があります。

始める前に

重要: 10.0 より前のバージョンからアップグレードする場合は、まずバージョン 10.0 にアップグレードしてから、バージョン 10.1 にアップグレードする必要があります。バージョン 10.0 へのアップグレードについては、「IBM Marketing Platform 10.0 アップグレード・ガイド」を参照してください。

同じディレクトリ内に以下のインストーラーがあることを確認します。

- IBM Marketing Software マスター・インストーラー
- Marketing Platform インストーラー

以下のガイドラインを、ベスト・プラクティスとして利用してください。

- 以前のバージョンの製品のインストーラーを当初置いたのと同じディレクトリにインストーラーを置きます。
- 以前のバージョンの IBM Marketing Software 製品インストーラーがあればすべてディレクトリから削除し、マスター・インストーラーが以前のバージョンのインストールを試行しないようにします。

このタスクについて

バージョン 10.0 以上からのアップグレードは、インプレース・アップグレードです。インプレース・アップグレードの場合、Marketing Platform のアップグレード後のバージョンを、現行の Marketing Platform がインストールされているディレクトリにインストールします。

旧バージョンからのアップグレード方法については、13 ページの『Marketing Platform のアップグレードのシナリオ』を参照してください。

手順

1. Marketing Platform システム・テーブル・データベースのバックアップ・コピーを作成します。

重要: このステップはスキップしないでください。アップグレード操作が失敗した場合、データベースをロールバックすることはできず、データが破損します。

2. Marketing Platform 配置を配置解除します。

3. IBM Marketing Software マスター・インストーラーを実行します。 IBM Marketing Software マスター・インストーラーが開始します。 IBM Marketing Software マスター・インストーラーの開始後は、以下の指示に従います。

- インストール・ディレクトリーを選択するように求めるプロンプトが IBM Marketing Software マスター・インストーラーから出されたら、ルート・インストール・ディレクトリーを選択します (このルート・ディレクトリーの下にある Marketing Platform インストール・ディレクトリーではありません)。
- Marketing Platform データベース接続情報の入力を求めるプロンプトが IBM Marketing Software マスター・インストーラーから出されたら、現行の Marketing Platform システム・テーブルに関する情報を入力します。

IBM Marketing Software マスター・インストーラーが一時停止し、Marketing Platform インストーラーが起動します。

4. Marketing Platform インストーラーの実行中に、以下のステップを実行します。
- a. インストール・ディレクトリーを求めるプロンプトが Marketing Platform インストーラーから出されたら、現行の Marketing Platform インストールのディレクトリー (通常 Platform という名前) を選択します。
 - b. 「自動データベース・セットアップ」を選択します。
 - c. インストール・ウィザードの残りのステップに従い、要求される情報を入力します。
5. インストールを配置します。

注: インストールの要約を示すウィンドウを注意深く確認します。エラーが報告される場合、インストーラー・ログ・ファイルを調べ、必要に応じて IBM Marketing Software テクニカル・サポートに連絡してください。

第 4 章 手動マイグレーションによるバージョン 8.6.0 からのアップグレード

Marketing Platform アップグレード・インストーラーにより、アップグレードに必要なすべてのデータ・マイグレーションを自動的に実行できます。ただし、組織のポリシーで自動的なマイグレーションが許可されない場合、Marketing Platform を手動でアップグレードするためのマイグレーション手順を実行する必要があります。

始める前に

同じディレクトリー内に以下のインストーラーがあることを確認します。

- IBM マスター・インストーラー
- Marketing Platform インストーラー

Marketing Platform バージョン 10.1 に手動でアップグレードする場合、SQL スクリプトを実行し、コマンド・ライン・ユーティリティーをいくつか実行してシステム・テーブルにデータを設定する必要があります。Marketing Platform のインストール済み環境が正常に機能し、ユーティリティーを実行できることを確認してください。これらのユーティリティーの使用に関する詳しい情報 (共通タスクのコマンド例を含む) は、以下のトピックで参照できます。

- 80 ページの『populateDb』
- 70 ページの『configTool』
- 70 ページの『alertConfigTool』

ユーティリティーは、Marketing Platform インストール済み環境の下の `tools\bin` ディレクトリーにあります。

他のバージョンからのアップグレードに関する情報は、13 ページの『Marketing Platform のアップグレードのシナリオ』を参照してください。

手順

1. Marketing Platform システム・テーブル・データベースのバックアップ・コピーを作成します。

重要: このステップはスキップしないでください。アップグレード操作が失敗した場合、データベースをロールバックすることはできず、データが破損します。

2. Marketing Platform 配置を配置解除します。
3. IBM Marketing Software マスター・インストーラーを実行します。IBM Marketing Software マスター・インストーラーが開始します。IBM Marketing Software マスター・インストーラーの開始後は、以下の指示に従います。
 - インストール・ディレクトリーの選択を求めるプロンプトが IBM Marketing Software マスター・インストーラーから出されたら、ルート・

インストール・ディレクトリーを選択します (このルート・ディレクトリーの下にある Marketing Platform インストール・ディレクトリーではありません)。

- Marketing Platform データベース接続情報の入力を求めるプロンプトが IBM Marketing Software マスター・インストーラーから出されたら、現行の Marketing Platform システム・テーブルに関する情報を入力します。

IBM Marketing Software マスター・インストーラーが一時停止し、Marketing Platform インストーラーが開始します。

4. Marketing Platform インストーラーの実行中に、以下のステップを実行します。
 - a. インストール・ディレクトリーを求めるプロンプトが Marketing Platform インストーラーから出されたら、現行の Marketing Platform インストールのディレクトリー (通常 Platform という名前) を選択します。
 - b. インストーラーが、Marketing Platform の前のインストール済み環境のバックアップ・コピーを作成することを許可します。
 - c. 「手動データベース・セットアップ」を選択します。
 - d. 「**Platform** の構成の実行」チェック・ボックスをクリアします。
 - e. インストール・ウィザードの残りのステップに従い、要求される情報を入力します。
5. システム・テーブルに対して以下のスクリプトを実行します。 *DB_Type* は、データベースのタイプです。

表 8. バージョン 8.6.0 からアップグレードするための SQL スクリプト

ファイル詳細	ファイルの場所
db2_unicode_fix_90.sql DB2 システム・テーブルにのみ適用されます	Marketing Platform インストール済み環境の db¥upgrade86to90 ディレクトリー
drop-liferay-tables.sql	Marketing Platform インストール済み環境の db¥upgrade86to90 ディレクトリー
ManagerSchema_DB_Type_90upg.sql	Marketing Platform インストール済み環境の db¥upgrade86to90 ディレクトリー
ManagerSchema_DB_Type_91upg.sql	Marketing Platform インストール済み環境の db¥upgrade90to91 ディレクトリー
ManagerSchema_DB_Type_911upg.sql	Marketing Platform インストール済み環境の db¥upgrade91to911 ディレクトリー
ManagerSchema_DB_Type_10upg.sql	Marketing Platform インストール済み環境の db¥upgrade912to10 ディレクトリー
DB_Type_QRTZ_Scheduler_10_upgrade_Script.sql	Marketing Platform インストール済み環境の db¥upgrade912to10 ディレクトリー
ManagerSchema_DB_Type_10002.sql	Marketing Platform インストール済み環境の db¥upgrade10001to10002 ディレクトリー
ManagerSchema_DB_Type_101.sql	Marketing Platform インストール済み環境の db¥upgrade10002to101 ディレクトリー

6. upgrade86to90 バッチまたはシェル・スクリプトを実行します。これは、Marketing Platform インストール済み環境の tools¥bin¥upgrade86to90 ディレクトリー内にあります。
7. upgrade90to91 バッチまたはシェル・スクリプトを実行します。これは、Marketing Platform インストール済み環境の tools¥bin¥upgrade90to91 ディレクトリー内にあります。
8. populateDb ユーティリティを使用して、システム・テーブルにデフォルトの Marketing Platform 構成プロパティー、ユーザーとグループ、およびセキュリティの役割と権限のデータを設定します。

populateDb ユーティリティは、Marketing Platform インストール済み環境の tools¥bin ディレクトリーにあります。コマンド例: populateDb -n Manager

9. 以下の説明に従い、configTool ユーティリティを使用して構成プロパティーをインポートします。

重要: 次の表に示す順序でインポートを実行します。

表 9. バージョン 8.6.0 からアップグレードするための構成プロパティー

ファイル詳細	コマンド例
<p>「Platform セキュリティー ログイン方法の詳細 LDAP 同期」カテゴリーの下に「LDAP BaseDN 定期検索の有効化」という名前のプロパティーが存在している場合、このインポートはスキップしてください。</p> <p>このプロパティーが存在しない場合、以下のインポートを実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ファイル: Ldap_Auto_Sync_BaseDN_Settings.xml • 場所: Marketing Platform インストール済み環境の conf¥upgrade86to90 ディレクトリー • 目的: DN による LDAP インポート検索を有効にする構成プロパティーのインポート 	<pre>configTool.bat -i -p "Affinium suite security ldapSynchronization ldapProperties" -f "C:¥Unica¥Platform¥conf ¥upgrade86to90¥Ldap_Auto_Sync_BaseDN_Settings.xml"</pre>
<ul style="list-style-type: none"> • ファイル: quicklinks_category.xml • 場所: Marketing Platform インストール済み環境の conf¥upgrade86to90 ディレクトリー • 目的: クイック・リンク・ダッシュボード・ポートレットのプロパティーのインポート 	<pre>configTool.bat -i -o -p "Affinium suite" -f "C:¥Unica¥Platform¥conf¥upgrade86to90¥ quicklinks_category.xml"</pre>
<ul style="list-style-type: none"> • ファイル: communication_email.xml • 場所: Marketing Platform インストール済み環境の conf¥upgrade86to90 ディレクトリー • 目的: 電子メールによる通知を有効にするための構成プロパティーのインポート 	<pre>configTool.bat -i -o -p "Affinium Manager" -f "C:¥Unica¥Platform¥conf¥upgrade86to90¥ communication_email.xml"</pre>

表 9. バージョン 8.6.0 からアップグレードするための構成プロパティ (続き)

ファイル詳細	コマンド例
<ul style="list-style-type: none"> • ファイル: notification.xml • 場所: Marketing Platform インストール済み環境の conf¥upgrade86to90 ディレクトリー • 目的: 通知機能のための構成プロパティのインポート。以下のプロパティが追加されます。デフォルト値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> - アラートを保持する日数: 90 - 電子メールの送信頻度 (分): 30 - 電子メールの送信を再試行する最大回数: 1 	<pre>configTool.bat -i -o -p "Affinium suite" -f "C:¥Unica¥Platform¥conf¥upgrade86to90¥ notification.xml"</pre>
<ul style="list-style-type: none"> • ファイル: manager_alerts_registration.xml • 場所: Marketing Platform インストール済み環境の conf ディレクトリー • 目的: アラート・メニュー項目を作成する構成プロパティのインポート 	<pre>configTool.bat -i -o -p "Affinium suite uiNavigation alerts" -f "C:¥Unica¥Platform¥conf¥ manager_alerts_registration.xml"</pre>
<ul style="list-style-type: none"> • ファイル: is_clustered.xml • 場所: Marketing Platform インストール済み環境の conf¥upgrade90to91 ディレクトリー • 目的: Marketing Platform インスタンスがクラスター化されている場合に指定するブール値プロパティ。クラスター化されたデプロイメントに Marketing Platform をインストールする場合、このプロパティを True に設定します。それ以外の場合、デフォルト値の False のままにします。 	<pre>configTool.bat -i -p "Affinium suite" -f "C:¥Unica¥Platform¥conf¥upgrade90to91¥ is_clustered.xml"</pre>
<ul style="list-style-type: none"> • ファイル: taskNotificationNavImport.xml • 場所: Marketing Platform インストール済み環境の conf¥upgrade90to91 ディレクトリー • 目的: 「設定」メニュー下の「マイ・ジョブ通知」ナビゲーション・オプションのインポート 	<pre>configTool.bat -i -p "Affinium suite uiNavigation settingsMenu" -f "C:¥Unica¥Platform¥conf¥upgrade90to91¥ taskNotificationNavImport.xml"</pre>

表 9. バージョン 8.6.0 からアップグレードするための構成プロパティ (続き)

ファイル詳細	コマンド例
<ul style="list-style-type: none"> • ファイル: taskNotification.xml • 場所: Marketing Platform インストール済み環境の conf¥upgrade90to91 ディレクトリー • 目的: スケジュール通知で通知されるグループを入力できる「グループ名」フィールドのインポート 	<pre>configTool.bat -i -p "Affinium suite scheduler taskRegistrations Campaign flowchart" -f "C:¥Unica¥Platform¥conf¥upgrade90to91¥ taskNotification.xml" configTool.bat -i -p "Affinium suite scheduler taskRegistrations Campaign mailing" -f "C:¥Unica¥Platform¥conf¥upgrade90to91¥ taskNotification.xml" configTool.bat -i -p "Affinium suite scheduler taskRegistrations Campaign optimize" -f "C:¥Unica¥Platform¥conf¥upgrade90to91¥ taskNotification.xml" configTool.bat -i -p "Affinium suite scheduler taskRegistrations InteractionHistory ETL" -f "C:¥Unica¥Platform¥conf¥upgrade90to91¥ taskNotification.xml" configTool.bat -i -p "Affinium suite scheduler taskRegistrations AttributionModeler TrainingRun" -f "C:¥Unica¥Platform¥conf¥upgrade90to91¥ taskNotification.xml" configTool.bat -i -p "Affinium suite scheduler taskRegistrations AttributionModeler ScoringRun" -f "C:¥Unica¥Platform¥conf¥upgrade90to91¥ taskNotification.xml"</pre>
<ul style="list-style-type: none"> • ファイル: cognos.xml • 場所: Marketing Platform インストール済み環境の conf¥upgrade90to91 ディレクトリー • 目的: Cognos バージョンの更新 	<pre>configTool.bat -i -o -p "Affinium Report integrations cognos10" -f "C:¥Unica¥Platform¥conf¥upgrade90to91¥cognos.xml"</pre>
<ul style="list-style-type: none"> • ファイル: scheduler.xml • 場所: Marketing Platform インストール済み環境の conf¥upgrade90to91 ディレクトリー • 目的: Marketing Platform のスケジューラー機能を有効または無効にするブール値プロパティ 	<pre>configTool.bat -i -p "Affinium suite scheduler" -f "C:¥Unica¥Platform¥conf¥upgrade90to91¥scheduler.xml"</pre>

表 9. バージョン 8.6.0 からアップグレードするための構成プロパティ (続き)

ファイル詳細	コマンド例
<ul style="list-style-type: none"> ファイル: unknownPolling.xml 場所: Marketing Platform インストール済み環境の conf¥upgrade90to91 ディレクトリー 目的: クイック・リンク・ダッシュボード・ポートレットのプロパティのインポート 	<pre>configTool.bat -i -p "Affinium suite scheduler" -f "C:¥Unica¥Platform¥conf¥upgrade90to91¥unknownPolling.xml"</pre>
<ul style="list-style-type: none"> ファイル: config_data_filter_cache.xml 場所: Marketing Platform インストール済み環境の conf¥upgrade90to91 ディレクトリー 目的: データ・フィルター・キャッシュを構成できるようにする。この構成プロパティを True に設定すると、パフォーマンス向上のため、データ・フィルター・キャッシュが有効になります。この構成プロパティを False に設定すると、キャッシュは無効になり、すべての操作は、データ・フィルター要求ごとにデータベースに接続して実行されます。この構成プロパティは、ユーザー・インターフェースに表示されます。 	<pre>configTool.bat -vp -p "Affinium Manager datafiltering" -f "C:¥Unica¥Platform¥conf¥upgrade90to91¥Config_data_filter_cache.xml"</pre> <p>注: この値を変更した場合、変更を有効にするには Marketing Platform を再始動する必要があります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ファイル: Refresh_data_filter_cache.xml 場所: Marketing Platform インストール済み環境の conf¥upgrade90to91 ディレクトリー 目的: データ・フィルター・キャッシュを有効にした場合は、この構成プロパティを使用して、データ・フィルター定義が変更されるたびにキャッシュを更新することができます。 	<pre>configTool.bat -vp -p "Affinium Manager datafiltering" -f "C:¥Unica¥Platform¥conf¥upgrade90to91¥Refresh_data_filter_cache.xml"</pre>
<ul style="list-style-type: none"> ファイル: emm_spss_navigation.xml および emm_spss_configuration.xml 場所: Marketing Platform インストール済み環境の conf ディレクトリー 目的: IBM SPSS® Modeler Advantage Enterprise Marketing Management Edition 構成プロパティのインポート 	<pre>configTool.bat -i -o -p "Affinium suite uiNavigation mainMenu Analytics" -f "C:¥Unica¥Platform¥conf¥emm_spss_navigation.xml"</pre> <pre>configTool.bat -i -o -p "Affinium" -f "C:¥Unica¥Platform¥conf¥emm_spss_configuration.xml"</pre>
<ul style="list-style-type: none"> ファイル: AuditEvents.xml 場所: Marketing Platform インストール済み環境の conf¥upgrade91to911 ディレクトリー 目的: IBM Marketing Platform 監査イベント構成ノードのインポート 	<pre>configTool.bat -i -p "Affinium suite" -f C:¥Unica¥Platform¥conf¥upgrade91to911¥AuditEvents.xml</pre>
<ul style="list-style-type: none"> ファイル: FederatedAuthentication.xml 場所: Marketing Platform インストール済み環境の conf¥upgrade91to911 ディレクトリー 目的: IBM Marketing Platform セキュリティー フェデレーテッド認証構成ノードのインポート 	<pre>configTool.bat -i -p "Affinium suite security" -f C:¥Unica¥Platform¥conf¥upgrade91to911¥FederatedAuthentication.xml</pre>

表 9. バージョン 8.6.0 からアップグレードするための構成プロパティ (続き)

ファイル詳細	コマンド例
<ul style="list-style-type: none"> ファイル: MO_bulk_deactivation_scheduler.xml 場所: Marketing Platform インストール済み環境の conf¥upgrade91to911 ディレクトリー 目的: Marketing Operations の一括非アクティブ化スケジュール機能の構成ノードのインポート 	<pre>configTool.bat -i -p "Affinium suite scheduler taskRegistrations" -f C:¥Unica¥Platform¥conf¥upgrade91to911¥ MO_bulk_deactivation_scheduler.xml</pre>
<ul style="list-style-type: none"> ファイル: emm_audit_navigation.xml 場所: Marketing Platform インストール済み環境の conf ディレクトリー 目的: 監査イベント・レポートの「分析」 > 「Marketing Platform」メニュー項目のインポート 	<pre>configTool.bat -i -p "Affinium suite uiNavigation mainMenu Analytics" -f C:¥Unica¥Platform¥conf¥ emm_audit_navigation.xml</pre>
<ul style="list-style-type: none"> ファイル: APISecurity.xml 場所: Marketing Platform インストール済み環境の conf¥upgrade911to912 ディレクトリー 目的: IBM Marketing Platform セキュリティー API 管理 (API management) 構成ノードのインポート 	<pre>configTool.bat -i -p "Affinium suite security" -f C:¥Unica¥Platform¥conf¥upgrade911to912¥ APISecurity.xml</pre>
<ul style="list-style-type: none"> ファイル: APISecurity.xml 場所: Marketing Platform インストール済み環境の conf¥upgrade912to10 ディレクトリー 目的: IBM Marketing Platform セキュリティー API 管理 (API management) 構成ノードのインポート 	<pre>configTool.bat -vp -p "Affinium suite security" -f C:¥Unica¥Platform¥conf¥upgrade912to10¥ APISecurity.xml</pre> <p>このバージョンの APISecurity.xml ファイルは、前の行に示しているものとは別のファイルであり、場所も異なることに注意してください。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ファイル: SAMLAuthentication.xml 場所: Marketing Platform インストール済み環境の conf¥upgrade912to10 ディレクトリー 目的: 「IBM Marketing Platform セキュリティー SAML2.0」構成ノードのインポート 	<pre>configTool.bat -vp -p "Affinium suite security" -f C:¥Unica¥Platform¥conf¥upgrade912to10¥ SAMLAuthentication.xml</pre>
<ul style="list-style-type: none"> ファイル: SAMLAuthenticationDetails.xml 場所: Marketing Platform インストール済み環境の conf¥upgrade912to10 ディレクトリー 目的: 「IBM Marketing Platform セキュリティー ログイン方法の詳細 SAML 2.0」構成ノードのインポート 	<pre>configTool.bat -vp -p "Affinium suite security loginModes" -f C:¥Unica¥Platform¥conf¥upgrade912to10¥ SAMLAuthenticationDetails.xml</pre>
<ul style="list-style-type: none"> ファイル: ExternalScheduler.xml 場所: Marketing Platform インストール済み環境の conf¥upgrade912to10 ディレクトリー 目的: 「IBM Marketing Platform スケジューラー スケジュール登録 (Scheduler registrations) IBM Marketing Platform」構成ノードのインポート 	<pre>configTool.bat -vp -p "Affinium suite scheduler taskRegistrations" -f C:¥Unica¥Platform¥conf¥upgrade912to10¥ ExternalScheduler.xml</pre>

表 9. バージョン 8.6.0 からアップグレードするための構成プロパティ (続き)

ファイル詳細	コマンド例
<ul style="list-style-type: none"> ファイル: JWTAuthentication.xml 場所: Marketing Platform インストール済み環境の conf¥upgrade912to10 ディレクトリー 目的: 「IBM Marketing Platform セキュリティー JWT 認証 (JWT authentication)」 構成ノードのインポート 	<pre>configTool.bat -vp -p "Affinium suite security" -f C:¥Unica¥Platform¥conf¥upgrade912to10¥ JWTAuthentication.xml</pre>
<ul style="list-style-type: none"> ファイル: SecureSuiteStaticContent.xml 場所: Marketing Platform インストール済み環境の conf¥upgrade912to10 ディレクトリー 目的: 「IBM Marketing Platform」 構成ノードの下の 「すべてのアプリケーションの静的コンテンツにセキュリティを適用 (Apply security on static content for all applications)」 プロパティのインポート 	<pre>configTool.bat -vp -p "Affinium suite" -f C:¥Unica¥Platform¥conf¥upgrade912to10¥ SecureSuiteStaticContent.xml</pre>
<ul style="list-style-type: none"> ファイル: APISecurity_interactCollection.xml 場所: Marketing Platform インストール済み環境の conf¥upgrade10to101 ディレクトリー 目的: 「IBM Marketing Platform セキュリティー API 管理 IBM Campaign」 構成ノードのインポート 	<pre>configTool.bat -vp -p "Affinium suite security apiSecurity campaign" -f <Platform_Home>¥conf¥upgrade10to101¥ APISecurity_interactCollection.xml</pre>
<ul style="list-style-type: none"> ファイル: APISecurity_triggeredMessages.xml 場所: Marketing Platform インストール済み環境の conf¥upgrade10to101 ディレクトリー 目的: 「IBM Marketing Platform セキュリティー API 管理 IBM Campaign」 構成ノードのインポート 	<pre>configTool.bat -vp -p "Affinium suite security apiSecurity campaign" -f <Platform_Home>¥conf¥upgrade10to101¥ APISecurity_triggeredMessages.xml</pre>
<ul style="list-style-type: none"> ファイル: supportServer_config.xml 場所: Marketing Platform インストール済み環境の conf¥upgrade10to101 ディレクトリー 目的: 「IBM Marketing Software」 構成ノードのインポート 	<pre>configTool.bat -vp -p "Affinium" -f <Platform_Home>¥conf¥upgrade10to101¥ supportServer_config.xml</pre>

10. 以下のように alertConfigTool ユーティリティーを使用して、Marketing Platform のアラートおよび通知を登録します。

alertConfigTool ユーティリティーは、Marketing Platform インストール済み環境の tools¥bin ディレクトリー内にあります。

このユーティリティーは、tools¥bin ディレクトリーから実行します。Marketing Platform インストール済み環境の conf ディレクトリーにある Platform_alerts_configuration.xml ファイルを参照してください。

コマンドの例 (Windows): alertConfigTool.bat -i -f
C:¥Unica¥Platform¥conf¥Platform_alerts_configuration.xml

11. 変更を適用するために、Marketing Platform を配置した Web アプリケーション・サーバーを再始動します。
12. 以下のステップを実行して、「ヘルプ」>「バージョン情報」ページを更新します。

- a. **configTool** ユーティリティーを使用して、「Affinium | Manager | about」カテゴリをエクスポートします。

注: 「Affinium | Manager | about」カテゴリは、非表示としてマークされているので、「構成」ページには表示されません。

例 (Windows):

```
configTool.bat -x -p "Affinium|Manager|about" -f
"C:¥Unica¥Platform¥conf¥about.xml"
```

- b. 直前で作成したエクスポート XML ファイル (例の about.xml) を編集して、バージョン番号および表示名を変更します。

`releaseNumber` プロパティを見つけ、値を Marketing Platform の現行バージョンに変更します。`copyright` プロパティの値を該当する著作権の年に変更します。以下の例では、リリース番号を 8.6.0.0.0 から 10.1.0.0.0 に変更し、著作権を 2017 に変更します。

```
<property name="releaseNumber" type="string">
<displayNameKey>about.releaseNumber</displayNameKey>
<value>8.6.0.0.0.build_number</value>
</property>
<property id="541" name="copyright" type="string_property" width="40">
<value>2016</value>
</property>
```

- c. **configTool** ユーティリティーを使用して、変更されたファイルをインポートします。

`-o` オプションを使用して、ノードを上書きする必要があります。インポートする際には、親ノードを指定する必要があります。例 (Windows):

```
configTool.bat -vp -i -p "Affinium|Manager" -f
"C:¥Unica¥Platform¥conf¥about.xml" -o
```

13. 59 ページの『第 10 章 Marketing Platform の配置』の説明に従って、インストール済み環境を配置して、検証します。

第 5 章 手動マイグレーションによるバージョン 9.0 からのアップグレード

Marketing Platform アップグレード・インストーラーにより、アップグレードに必要なすべてのデータ・マイグレーションを自動的に実行できます。ただし、組織のポリシーで自動的なマイグレーションが許可されない場合、Marketing Platform を手動でアップグレードするためのマイグレーション手順を実行する必要があります。

始める前に

同じディレクトリー内に以下のインストーラーがあることを確認します。

- IBM マスター・インストーラー
- Marketing Platform インストーラー

Marketing Platform バージョン 10.1 に手動でアップグレードする場合、SQL スクリプトを実行し、コマンド・ライン・ユーティリティーをいくつか実行してシステム・テーブルにデータを設定する必要があります。Marketing Platform のインストール済み環境が正常に機能し、ユーティリティーを実行できることを確認してください。これらのユーティリティーの使用に関する詳しい情報 (共通タスクのコマンド例を含む) は、以下のトピックで参照できます。

- 80 ページの『populateDb』
- 70 ページの『configTool』

ユーティリティーは、Marketing Platform インストール済み環境の下の `tools\bin` ディレクトリーにあります。

他のバージョンからのアップグレードに関する情報は、13 ページの『Marketing Platform のアップグレードのシナリオ』を参照してください。

手順

1. Marketing Platform システム・テーブル・データベースのバックアップ・コピーを作成します。

重要: このステップはスキップしないでください。アップグレード操作が失敗した場合、データベースをロールバックすることはできず、データが破損します。

2. Marketing Platform 配置を配置解除します。
3. IBM Marketing Software マスター・インストーラーを実行します。IBM Marketing Software マスター・インストーラーが開始します。IBM Marketing Software マスター・インストーラーの開始後は、以下の指示に従います。
 - インストール・ディレクトリーの選択を求めるプロンプトが IBM Marketing Software マスター・インストーラーから出されたら、ルート・

インストール・ディレクトリーを選択します (このルート・ディレクトリーの下にある Marketing Platform インストール・ディレクトリーではありません)。

- Marketing Platform データベース接続情報の入力を求めるプロンプトが IBM Marketing Software マスター・インストーラーから出されたら、現行の Marketing Platform システム・テーブルに関する情報を入力します。

IBM Marketing Software マスター・インストーラーが一時停止し、Marketing Platform インストーラーが開始します。

4. Marketing Platform インストーラーの実行中に、以下のステップを実行します。
 - a. インストール・ディレクトリーを求めるプロンプトが Marketing Platform インストーラーから出されたら、現行の Marketing Platform インストールのディレクトリー (通常 Platform という名前) を選択します。
 - b. インストーラーが、Marketing Platform の前のインストール済み環境のバックアップ・コピーを作成することを許可します。
 - c. 「手動データベース・セットアップ」を選択します。
 - d. 「**Platform** の構成の実行」チェック・ボックスをクリアします。
 - e. インストール・ウィザードの残りのステップに従い、要求される情報を入力します。
5. システム・テーブルに対して以下のスクリプトを実行します。 *DB_Type* は、データベースのタイプです。

表 10. バージョン 9.0 からアップグレードするための SQL スクリプト

ファイル詳細	ファイルの場所
ManagerSchema_DB_Type_91upg.sql	Marketing Platform インストール済み環境の db¥upgrade90to91 ディレクトリー
ManagerSchema_DB_Type_911upg.sql	Marketing Platform インストール済み環境の db¥upgrade91to911 ディレクトリー
ManagerSchema_DB_Type_10upg.sql	Marketing Platform インストール済み環境の db¥upgrade912to10 ディレクトリー
DB_Type_QUIZ_Scheduler_10_upgrade_Script.sql	Marketing Platform インストール済み環境の db¥upgrade912to10 ディレクトリー
ManagerSchema_DB_Type_10002.sql	Marketing Platform インストール済み環境の db¥upgrade10001to10002 ディレクトリー
ManagerSchema_DB_Type_101.sql	Marketing Platform インストール済み環境の db¥upgrade10002to101 ディレクトリー

6. upgrade90to91 バッチまたはシェル・スクリプトを実行します。これは、Marketing Platform インストール済み環境の tools¥bin¥upgrade90to91 ディレクトリー内にあります。
7. populateDb ユーティリティーを使用して、システム・テーブルにデフォルトの Marketing Platform 構成プロパティー、ユーザーとグループ、およびセキュリティの役割と権限のデータを設定します。

populateDb ユーティリティは、Marketing Platform インストール済み環境の tools¥bin ディレクトリーにあります。コマンド例: populateDb -n Manager

8. 以下の説明に従い、configTool ユーティリティを使用して構成プロパティーをインポートします。

重要: 次の表に示す順序でインポートを実行します。

表 11. バージョン 9.0.0 からアップグレードするための構成プロパティー

ファイル詳細	コマンド例
<ul style="list-style-type: none"> • ファイル: is_clustered.xml • 場所: Marketing Platform インストール済み環境の conf¥upgrade90to91 ディレクトリー • 目的: Marketing Platform インスタンスがクラスター化されている場合に指定するブール値プロパティー。クラスター化されたデプロイメントに Marketing Platform をインストールする場合、このプロパティーを True に設定します。それ以外の場合、デフォルト値の False のままにします。 	<pre>configTool.bat -i -p "Affinium suite" -f "C:¥Unica¥Platform¥conf¥upgrade90to91¥ is_clustered.xml"</pre>
<ul style="list-style-type: none"> • ファイル: taskNotificationNavImport.xml • 場所: Marketing Platform インストール済み環境の conf¥upgrade90to91 ディレクトリー • 目的: 「設定」メニュー下の「マイ・ジョブ通知」ナビゲーション・オプションのインポート 	<pre>configTool.bat -i -p "Affinium suite uiNavigation settingsMenu" -f "C:¥Unica¥Platform¥conf¥upgrade90to91¥ taskNotificationNavImport.xml"</pre>

表 11. バージョン 9.0.0 からアップグレードするための構成プロパティ (続き)

ファイル詳細	コマンド例
<ul style="list-style-type: none"> • ファイル: taskNotification.xml • 場所: Marketing Platform インストール済み環境の conf¥upgrade90to91 ディレクトリー • 目的: スケジュール通知で通知されるグループを入力できる「グループ名」フィールドのインポート 	<pre>configTool.bat -i -p "Affinium suite scheduler taskRegistrations Campaign flowchart" -f "C:¥Unica¥Platform¥conf¥upgrade90to91¥ taskNotification.xml" configTool.bat -i -p "Affinium suite scheduler taskRegistrations Campaign mailing" -f "C:¥Unica¥Platform¥conf¥upgrade90to91¥ taskNotification.xml" configTool.bat -i -p "Affinium suite scheduler taskRegistrations Campaign optimize" -f "C:¥Unica¥Platform¥conf¥upgrade90to91¥ taskNotification.xml" configTool.bat -i -p "Affinium suite scheduler taskRegistrations InteractionHistory ETL" -f "C:¥Unica¥Platform¥conf¥upgrade90to91¥ taskNotification.xml" configTool.bat -i -p "Affinium suite scheduler taskRegistrations AttributionModeler TrainingRun" -f "C:¥Unica¥Platform¥conf¥upgrade90to91¥ taskNotification.xml" configTool.bat -i -p "Affinium suite scheduler taskRegistrations AttributionModeler ScoringRun" -f "C:¥Unica¥Platform¥conf¥upgrade90to91¥ taskNotification.xml"</pre>
<ul style="list-style-type: none"> • ファイル: cognos.xml • 場所: Marketing Platform インストール済み環境の conf¥upgrade90to91 ディレクトリー • 目的: Cognos バージョンの更新 	<pre>configTool.bat -i -o -p "Affinium Report integrations cognos10" -f "C:¥Unica¥Platform¥conf¥upgrade90to91¥cognos.xml"</pre>
<ul style="list-style-type: none"> • ファイル: scheduler.xml • 場所: Marketing Platform インストール済み環境の conf¥upgrade90to91 ディレクトリー • 目的: Marketing Platform のスケジューラー機能を有効または無効にするブール値プロパティ 	<pre>configTool.bat -i -p "Affinium suite scheduler" -f "C:¥Unica¥Platform¥conf¥upgrade90to91¥scheduler.xml"</pre>

表 11. バージョン 9.0.0 からアップグレードするための構成プロパティ (続き)

ファイル詳細	コマンド例
<ul style="list-style-type: none"> ファイル: unknownPolling.xml 場所: Marketing Platform インストール済み環境の conf¥upgrade90to91 ディレクトリー 目的: クイック・リンク・ダッシュボード・ポートレットのプロパティのインポート 	<pre>configTool.bat -i -p "Affinium suite scheduler" -f "C:¥Unica¥Platform¥conf¥upgrade90to91¥unknownPolling.xml"</pre>
<ul style="list-style-type: none"> ファイル: config_data_filter_cache.xml 場所: Marketing Platform インストール済み環境の conf¥upgrade90to91 ディレクトリー 目的: データ・フィルター・キャッシュを構成できるようにする。この構成プロパティを True に設定すると、パフォーマンス向上のため、データ・フィルター・キャッシュが有効になります。この構成プロパティを False に設定すると、キャッシュは無効になり、すべての操作は、データ・フィルター要求ごとにデータベースに接続して実行されます。この構成プロパティは、ユーザー・インターフェースに表示されます。 	<pre>configTool.bat -vp -p "Affinium Manager datafiltering" -f "C:¥Unica¥Platform¥conf¥upgrade90to91¥Config_data_filter_cache.xml"</pre> <p>注: この値を変更した場合、変更を有効にするには Marketing Platform を再始動する必要があります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ファイル: Refresh_data_filter_cache.xml 場所: Marketing Platform インストール済み環境の conf¥upgrade90to91 ディレクトリー 目的: データ・フィルター・キャッシュを有効にした場合は、この構成プロパティを使用して、データ・フィルター定義が変更されるたびにキャッシュを更新することができます。 	<pre>configTool.bat -vp -p "Affinium Manager datafiltering" -f "C:¥Unica¥Platform¥conf¥upgrade90to91¥Refresh_data_filter_cache.xml"</pre>
<ul style="list-style-type: none"> ファイル: emm_spss_navigation.xml および emm_spss_configuration.xml 場所: Marketing Platform インストール済み環境の conf ディレクトリー 目的: IBM SPSS Modeler Advantage Enterprise Marketing Management Edition 構成プロパティのインポート 	<pre>configTool.bat -i -o -p "Affinium suite uiNavigation mainMenu Analytics" -f "C:¥Unica¥Platform¥conf¥emm_spss_navigation.xml"</pre> <pre>configTool.bat -i -o -p "Affinium" -f "C:¥Unica¥Platform¥conf¥emm_spss_configuration.xml"</pre>
<ul style="list-style-type: none"> ファイル: AuditEvents.xml 場所: Marketing Platform インストール済み環境の conf¥upgrade91to911 ディレクトリー 目的: IBM Marketing Platform 監査イベント構成ノードのインポート 	<pre>configTool.bat -i -p "Affinium suite" -f "C:¥Unica¥Platform¥conf¥upgrade91to911¥AuditEvents.xml"</pre>
<ul style="list-style-type: none"> ファイル: FederatedAuthentication.xml 場所: Marketing Platform インストール済み環境の conf¥upgrade91to911 ディレクトリー 目的: IBM Marketing Platform セキュリティー フェデレーテッド認証構成ノードのインポート 	<pre>configTool.bat -i -p "Affinium suite security" -f "C:¥Unica¥Platform¥conf¥upgrade91to911¥FederatedAuthentication.xml"</pre>

表 11. バージョン 9.0.0 からアップグレードするための構成プロパティ (続き)

ファイル詳細	コマンド例
<ul style="list-style-type: none"> ファイル: MO_bulk_deactivation_scheduler.xml 場所: Marketing Platform インストール済み環境の conf¥upgrade91to911 ディレクトリー 目的: Marketing Operations の一括非アクティブ化スケジュール機能の構成ノードのインポート 	<pre>configTool.bat -i -p "Affinium suite scheduler taskRegistrations" -f C:¥Unica¥Platform¥conf¥upgrade91to911¥ MO_bulk_deactivation_scheduler.xml</pre>
<ul style="list-style-type: none"> ファイル: emm_audit_navigation.xml 場所: Marketing Platform インストール済み環境の conf ディレクトリー 目的: 監査イベント・レポートの「分析」>「Marketing Platform」メニュー項目のインポート 	<pre>configTool.bat -i -p "Affinium suite uiNavigation mainMenu Analytics" -f C:¥Unica¥Platform¥conf¥ emm_audit_navigation.xml</pre>
<ul style="list-style-type: none"> ファイル: APISecurity.xml 場所: Marketing Platform インストール済み環境の conf¥upgrade911to912 ディレクトリー 目的: IBM Marketing Platform セキュリティー API 管理 (API management) 構成ノードのインポート 	<pre>configTool.bat -i -p "Affinium suite security" -f C:¥Unica¥Platform¥conf¥upgrade911to912¥ APISecurity.xml</pre>
<ul style="list-style-type: none"> ファイル: APISecurity.xml 場所: Marketing Platform インストール済み環境の conf¥upgrade912to10 ディレクトリー 目的: IBM Marketing Platform セキュリティー API 管理 (API management) 構成ノードのインポート 	<pre>configTool.bat -vp -p "Affinium suite security" -f C:¥Unica¥Platform¥conf¥upgrade912to10¥ APISecurity.xml</pre> <p>このバージョンの APISecurity.xml ファイルは、前の行に示しているものとは別のファイルであり、場所も異なることに注意してください。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ファイル: SAMLAuthentication.xml 場所: Marketing Platform インストール済み環境の conf¥upgrade912to10 ディレクトリー 目的: 「IBM Marketing Platform セキュリティー SAML2.0」構成ノードのインポート 	<pre>configTool.bat -vp -p "Affinium suite security" -f C:¥Unica¥Platform¥conf¥upgrade912to10¥ SAMLAuthentication.xml</pre>
<ul style="list-style-type: none"> ファイル: SAMLAuthenticationDetails.xml 場所: Marketing Platform インストール済み環境の conf¥upgrade912to10 ディレクトリー 目的: 「IBM Marketing Platform セキュリティー ログイン方法の詳細 SAML 2.0」構成ノードのインポート 	<pre>configTool.bat -vp -p "Affinium suite security loginModes" -f C:¥Unica¥Platform¥conf¥upgrade912to10¥ SAMLAuthenticationDetails.xml</pre>
<ul style="list-style-type: none"> ファイル: ExternalScheduler.xml 場所: Marketing Platform インストール済み環境の conf¥upgrade912to10 ディレクトリー 目的: 「IBM Marketing Platform スケジューラー スケジュール登録 (Scheduler registrations) IBM Marketing Platform」構成ノードのインポート 	<pre>configTool.bat -vp -p "Affinium suite scheduler taskRegistrations" -f C:¥Unica¥Platform¥conf¥upgrade912to10¥ ExternalScheduler.xml</pre>

表 11. バージョン 9.0.0 からアップグレードするための構成プロパティ (続き)

ファイル詳細	コマンド例
<ul style="list-style-type: none"> ファイル: JWTAuthentication.xml 場所: Marketing Platform インストール済み環境の conf¥upgrade912to10 ディレクトリー 目的: 「IBM Marketing Platform セキュリティー JWT 認証 (JWT authentication)」 構成ノードのインポート 	<pre>configTool.bat -vp -p "Affinium suite security" -f C:¥Unica¥Platform¥conf¥upgrade912to10¥ JWTAuthentication.xml</pre>
<ul style="list-style-type: none"> ファイル: SecureSuiteStaticContent.xml 場所: Marketing Platform インストール済み環境の conf¥upgrade912to10 ディレクトリー 目的: 「IBM Marketing Platform」 構成ノードの下の 「すべてのアプリケーションの静的コンテンツにセキュリティを適用 (Apply security on static content for all applications)」 プロパティのインポート 	<pre>configTool.bat -vp -p "Affinium suite" -f C:¥Unica¥Platform¥conf¥upgrade912to10¥ SecureSuiteStaticContent.xml</pre>
<ul style="list-style-type: none"> ファイル: APISecurity_interactCollection.xml 場所: Marketing Platform インストール済み環境の conf¥upgrade10to101 ディレクトリー 目的: 「IBM Marketing Platform セキュリティー API 管理 IBM Campaign」 構成ノードのインポート 	<pre>configTool.bat -vp -p "Affinium suite security apiSecurity campaign" -f <Platform_Home>¥conf¥upgrade10to101¥ APISecurity_interactCollection.xml</pre>
<ul style="list-style-type: none"> ファイル: APISecurity_triggeredMessages.xml 場所: Marketing Platform インストール済み環境の conf¥upgrade10to101 ディレクトリー 目的: 「IBM Marketing Platform セキュリティー API 管理 IBM Campaign」 構成ノードのインポート 	<pre>configTool.bat -vp -p "Affinium suite security apiSecurity campaign" -f <Platform_Home>¥conf¥upgrade10to101¥ APISecurity_triggeredMessages.xml</pre>
<ul style="list-style-type: none"> ファイル: supportServer_config.xml 場所: Marketing Platform インストール済み環境の conf¥upgrade10to101 ディレクトリー 目的: 「IBM Marketing Software」 構成ノードのインポート 	<pre>configTool.bat -vp -p "Affinium" -f <Platform_Home>¥conf¥upgrade10to101¥ supportServer_config.xml</pre>

9. 前のステップで構成プロパティをインポートしたら、変更を適用するために、Marketing Platform を配置した Web アプリケーション・サーバーを再始動してください。
10. 以下のステップを実行して、「ヘルプ」 > 「バージョン情報」 ページを更新します。
 - a. **configTool** ユーティリティーを使用して、「**Affinium** | **Manager** | **about**」 カテゴリーをエクスポートします。

注: 「**Affinium** | **Manager** | **about**」 カテゴリーは、非表示としてマークされているので、「構成」ページには表示されません。

例 (Windows):

```
configTool.bat -x -p "Affinium|Manager|about" -f
"C:¥Unica¥Platform¥conf¥about.xml"
```

- b. 直前で作成したエクスポート XML ファイル (例の about.xml) を編集して、バージョン番号および表示名を変更します。

releaseNumber プロパティを見つけ、値を Marketing Platform の現行バージョンに変更します。**copyright** プロパティの値を該当する著作権の年に変更します。以下の例では、リリース番号を 9.0.0.0.0 から 10.1.0.0.0 に変更し、著作権を 2017 に変更します。

```
<property name="releaseNumber" type="string">
<displayNameKey>about.releaseNumber</displayNameKey>
<value>9.0.0.0.0.build_number</value>
</property>
</property>
<property id="541" name="copyright" type="string_property" width="40">
<value>2016</value>
</property>
```

- c. **configTool** ユーティリティを使用して、変更されたファイルをインポートします。

-o オプションを使用して、ノードを上書きする必要があります。インポートする際には、親ノードを指定する必要があります。例 (Windows):

```
configTool.bat -vp -i -p "Affinium|Manager" -f
"C:¥Unica¥Platform¥conf¥about.xml" -o
```

11. 59 ページの『第 10 章 Marketing Platform の配置』の説明に従って、インストール済み環境を配置して、検証します。

第 6 章 手動マイグレーションによるバージョン 9.1.0 からのアップグレード

Marketing Platform アップグレード・インストーラーにより、アップグレードに必要なすべてのデータ・マイグレーションを自動的に実行できます。ただし、組織のポリシーで自動的なマイグレーションが許可されない場合、Marketing Platform を手動でアップグレードするためのマイグレーション手順を実行する必要があります。

始める前に

同じディレクトリー内に以下のインストーラーがあることを確認します。

- IBM マスター・インストーラー
- Marketing Platform インストーラー

Marketing Platform バージョン 10.1 に手動でアップグレードする場合、SQL スクリプトを実行し、コマンド・ライン・ユーティリティーをいくつか実行してシステム・テーブルにデータを設定する必要があります。Marketing Platform のインストール済み環境が正常に機能し、ユーティリティーを実行できることを確認してください。これらのユーティリティーの使用に関する詳しい情報 (共通タスクのコマンド例を含む) は、以下のトピックで参照できます。

- 80 ページの『populateDb』
- 70 ページの『configTool』

ユーティリティーは、Marketing Platform インストール済み環境の下の `tools\bin` ディレクトリーにあります。

他のバージョンからのアップグレードに関する情報は、13 ページの『Marketing Platform のアップグレードのシナリオ』を参照してください。

手順

1. Marketing Platform システム・テーブル・データベースのバックアップ・コピーを作成します。

重要: このステップはスキップしないでください。アップグレード操作が失敗した場合、データベースをロールバックすることはできず、データが破損します。

2. Marketing Platform 配置を配置解除します。
3. IBM Marketing Software マスター・インストーラーを実行します。IBM Marketing Software マスター・インストーラーが開始します。IBM Marketing Software マスター・インストーラーの開始後は、以下の指示に従います。
 - インストール・ディレクトリーの選択を求めるプロンプトが IBM Marketing Software マスター・インストーラーから出されたら、ルート・

インストール・ディレクトリーを選択します (このルート・ディレクトリーの下にある Marketing Platform インストール・ディレクトリーではありません)。

- Marketing Platform データベース接続情報の入力を求めるプロンプトが IBM Marketing Software マスター・インストーラーから出されたら、現行の Marketing Platform システム・テーブルに関する情報を入力します。

IBM Marketing Software マスター・インストーラーが一時停止し、Marketing Platform インストーラーが開始します。

- Marketing Platform インストーラーの実行中に、以下のステップを実行します。
 - インストール・ディレクトリーを求めるプロンプトが Marketing Platform インストーラーから出されたら、現行の Marketing Platform インストールのディレクトリー (通常 Platform という名前) を選択します。
 - インストーラーが、Marketing Platform の前のインストール済み環境のバックアップ・コピーを作成することを許可します。
 - 「手動データベース・セットアップ」を選択します。
 - 「**Platform** の構成の実行」チェック・ボックスをクリアします。
 - インストール・ウィザードの残りのステップに従い、要求される情報を入力します。
- システム・テーブルに対して以下のスクリプトを実行します。 *DB_Type* は、データベースのタイプです。

表 12. バージョン 9.1.0 からアップグレードするための SQL スクリプト

ファイル詳細	ファイルの場所
ManagerSchema_DB_Type_911upg.sql	Marketing Platform インストール済み環境の db¥upgrade91to911 ディレクトリー
ManagerSchema_DB_Type_10upg.sql	Marketing Platform インストール済み環境の db¥upgrade912to10 ディレクトリー
DB_Type_QRTZ_Scheduler_10_upgrade_Script.sql	Marketing Platform インストール済み環境の db¥upgrade912to10 ディレクトリー
ManagerSchema_DB_Type_10002.sql	Marketing Platform インストール済み環境の db¥upgrade10001to10002 ディレクトリー
ManagerSchema_DB_Type_101.sql	Marketing Platform インストール済み環境の db¥upgrade10002to101 ディレクトリー

- populateDb ユーティリティーを使用して、システム・テーブルにデフォルトの Marketing Platform 構成プロパティー、ユーザーとグループ、およびセキュリティーの役割と権限のデータを設定します。

populateDb ユーティリティーは、Marketing Platform インストール済み環境の tools¥bin ディレクトリーにあります。コマンド例: populateDb -n Manager

- 以下の説明に従い、configTool ユーティリティーを使用して構成プロパティーをインポートします。

重要: 次の表に示す順序でインポートを実行します。

表 13. バージョン 9.1.0 からアップグレードするための構成プロパティ

ファイル詳細	コマンド例
<ul style="list-style-type: none"> ファイル: AuditEvents.xml 場所: Marketing Platform インストール済み環境の conf¥upgrade91to911 ディレクトリー 目的: IBM Marketing Platform 監査イベント構成ノードのインポート 	<pre>configTool.bat -i -p "Affinium suite" -f C:¥Unica¥Platform¥conf¥upgrade91to911¥ AuditEvents.xml</pre>
<ul style="list-style-type: none"> ファイル: FederatedAuthentication.xml 場所: Marketing Platform インストール済み環境の conf¥upgrade91to911 ディレクトリー 目的: IBM Marketing Platform セキュリティー フェデレーテッド認証構成ノードのインポート 	<pre>configTool.bat -i -p "Affinium suite security" -f C:¥Unica¥Platform¥conf¥upgrade91to911¥ FederatedAuthentication.xml</pre>
<ul style="list-style-type: none"> ファイル: MO_bulk_deactivation_scheduler.xml 場所: Marketing Platform インストール済み環境の conf¥upgrade91to911 ディレクトリー 目的: Marketing Operations の一括非アクティブ化スケジュール機能の構成ノードのインポート 	<pre>configTool.bat -i -p "Affinium suite scheduler taskRegistrations" -f C:¥Unica¥Platform¥conf¥upgrade91to911¥ MO_bulk_deactivation_scheduler.xml</pre>
<ul style="list-style-type: none"> ファイル: emm_audit_navigation.xml 場所: Marketing Platform インストール済み環境の conf ディレクトリー 目的: 監査イベント・レポートの「分析」 > 「Marketing Platform」メニュー項目のインポート 	<pre>configTool.bat -i -p "Affinium suite uiNavigation mainMenu Analytics" -f C:¥Unica¥Platform¥conf¥ emm_audit_navigation.xml</pre>
<ul style="list-style-type: none"> ファイル: APISecurity.xml 場所: Marketing Platform インストール済み環境の conf¥upgrade911to912 ディレクトリー 目的: IBM Marketing Platform セキュリティー API 管理 (API management) 構成ノードのインポート 	<pre>configTool.bat -i -p "Affinium suite security" -f C:¥Unica¥Platform¥conf¥upgrade911to912¥ APISecurity.xml</pre>
<ul style="list-style-type: none"> ファイル: APISecurity.xml 場所: Marketing Platform インストール済み環境の conf¥upgrade912to10 ディレクトリー 目的: IBM Marketing Platform セキュリティー API 管理 (API management) 構成ノードのインポート 	<pre>configTool.bat -vp -p "Affinium suite security" -f C:¥Unica¥Platform¥conf¥upgrade912to10¥ APISecurity.xml</pre> <p>このバージョンの APISecurity.xml ファイルは、前の行に示しているものとは別のファイルであり、場所も異なることに注意してください。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ファイル: SAMLAuthentication.xml 場所: Marketing Platform インストール済み環境の conf¥upgrade912to10 ディレクトリー 目的: 「IBM Marketing Platform セキュリティー SAML2.0」構成ノードのインポート 	<pre>configTool.bat -vp -p "Affinium suite security" -f C:¥Unica¥Platform¥conf¥upgrade912to10¥ SAMLAuthentication.xml</pre>

表 13. バージョン 9.1.0 からアップグレードするための構成プロパティ (続き)

ファイル詳細	コマンド例
<ul style="list-style-type: none"> ファイル: SAMLAuthenticationDetails.xml 場所: Marketing Platform インストール済み環境の conf¥upgrade912to10 ディレクトリー 目的: 「IBM Marketing Platform セキュリティー ログイン方法の詳細 SAML 2.0」 構成ノードのインポート 	<pre>configTool.bat -vp -p "Affinium suite security loginModes" -f C:¥Unica¥Platform¥conf¥upgrade912to10¥ SAMLAuthenticationDetails.xml</pre>
<ul style="list-style-type: none"> ファイル: ExternalScheduler.xml 場所: Marketing Platform インストール済み環境の conf¥upgrade912to10 ディレクトリー 目的: 「IBM Marketing Platform スケジューラー スケジュール登録 (Scheduler registrations) IBM Marketing Platform」 構成ノードのインポート 	<pre>configTool.bat -vp -p "Affinium suite scheduler taskRegistrations" -f C:¥Unica¥Platform¥conf¥upgrade912to10¥ ExternalScheduler.xml</pre>
<ul style="list-style-type: none"> ファイル: JWTAuthentication.xml 場所: Marketing Platform インストール済み環境の conf¥upgrade912to10 ディレクトリー 目的: 「IBM Marketing Platform セキュリティー JWT 認証 (JWT authentication)」 構成ノードのインポート 	<pre>configTool.bat -vp -p "Affinium suite security" -f C:¥Unica¥Platform¥conf¥upgrade912to10¥ JWTAuthentication.xml</pre>
<ul style="list-style-type: none"> ファイル: SecureSuiteStaticContent.xml 場所: Marketing Platform インストール済み環境の conf¥upgrade912to10 ディレクトリー 目的: 「IBM Marketing Platform」 構成ノードの下の 「すべてのアプリケーションの静的コンテンツにセキュリティを適用 (Apply security on static content for all applications)」 プロパティのインポート 	<pre>configTool.bat -vp -p "Affinium suite" -f C:¥Unica¥Platform¥conf¥upgrade912to10¥ SecureSuiteStaticContent.xml</pre>
<ul style="list-style-type: none"> ファイル: APISecurity_interactCollection.xml 場所: Marketing Platform インストール済み環境の conf¥upgrade10to101 ディレクトリー 目的: 「IBM Marketing Platform セキュリティー API 管理 IBM Campaign」 構成ノードのインポート 	<pre>configTool.bat -vp -p "Affinium suite security apiSecurity campaign" -f <Platform_Home>¥conf¥upgrade10to101¥ APISecurity_interactCollection.xml</pre>
<ul style="list-style-type: none"> ファイル: APISecurity_triggeredMessages.xml 場所: Marketing Platform インストール済み環境の conf¥upgrade10to101 ディレクトリー 目的: 「IBM Marketing Platform セキュリティー API 管理 IBM Campaign」 構成ノードのインポート 	<pre>configTool.bat -vp -p "Affinium suite security apiSecurity campaign" -f <Platform_Home>¥conf¥upgrade10to101¥ APISecurity_triggeredMessages.xml</pre>
<ul style="list-style-type: none"> ファイル: supportServer_config.xml 場所: Marketing Platform インストール済み環境の conf¥upgrade10to101 ディレクトリー 目的: 「IBM Marketing Software」 構成ノードのインポート 	<pre>configTool.bat -vp -p "Affinium" -f <Platform_Home>¥conf¥upgrade10to101¥ supportServer_config.xml</pre>

8. 前のステップで構成プロパティをインポートしたら、変更を適用するために、Marketing Platform を配置した Web アプリケーション・サーバーを再始動してください。
9. 以下のステップを実行して、「ヘルプ」>「バージョン情報」ページを更新します。

- a. **configTool** ユーティリティーを使用して、「**Affinium | Manager | about**」カテゴリーをエクスポートします。

注: 「**Affinium | Manager | about**」カテゴリーは、非表示としてマークされているので、「構成」ページには表示されません。

例 (Windows):

```
configTool.bat -x -p "Affinium|Manager|about" -f
"C:¥Unica¥Platform¥conf¥about.xml"
```

- b. 直前で作成したエクスポート XML ファイル (例の about.xml) を編集して、バージョン番号および表示名を変更します。

releaseNumber プロパティを見つけ、値を Marketing Platform の現行バージョンに変更します。**copyright** プロパティの値を該当する著作権の年に変更します。以下の例では、リリース番号を 9.1.0.0.0 から 10.1.0.0.0 に変更し、著作権を 2017 に変更します。

```
<property name="releaseNumber" type="string">
<displayNameKey>about.releaseNumber</displayNameKey>
<value>9.1.0.0.0.build_number</value>
</property>
</property>
<property id="541" name="copyright" type="string_property" width="40">
<value>2016</value>
</property>
```

- c. **configTool** ユーティリティーを使用して、変更されたファイルをインポートします。

-o オプションを使用して、ノードを上書きする必要があります。インポートする際には、親ノードを指定する必要があります。例 (Windows):

```
configTool.bat -vp -i -p "Affinium|Manager" -f
"C:¥Unica¥Platform¥conf¥about.xml" -o
```

10. 59 ページの『第 10 章 Marketing Platform の配置』の説明に従って、インストール済み環境を配置して、検証します。

第 7 章 手動マイグレーションによるバージョン 9.1.1 からのアップグレード

Marketing Platform アップグレード・インストーラーにより、アップグレードに必要なすべてのデータ・マイグレーションを自動的に実行できます。ただし、組織のポリシーで自動的なマイグレーションが許可されない場合、Marketing Platform を手動でアップグレードするためのマイグレーション手順を実行する必要があります。

始める前に

同じディレクトリー内に以下のインストーラーがあることを確認します。

- IBM マスター・インストーラー
- Marketing Platform インストーラー

Marketing Platform バージョン 10.1 に手動でアップグレードする場合、SQL スクリプトを実行し、コマンド・ライン・ユーティリティーをいくつか実行してシステム・テーブルにデータを設定する必要があります。Marketing Platform のインストール済み環境が正常に機能し、ユーティリティーを実行できることを確認してください。これらのユーティリティーの使用に関する詳しい情報 (共通タスクのコマンド例を含む) は、以下のトピックで参照できます。

- 80 ページの『populateDb』
- 70 ページの『configTool』

ユーティリティーは、Marketing Platform インストール済み環境の下の `tools\bin` ディレクトリーにあります。

他のバージョンからのアップグレードに関する情報は、13 ページの『Marketing Platform のアップグレードのシナリオ』を参照してください。

手順

1. Marketing Platform システム・テーブル・データベースのバックアップ・コピーを作成します。

重要: このステップはスキップしないでください。アップグレード操作が失敗した場合、データベースをロールバックすることはできず、データが破損します。

2. Marketing Platform 配置を配置解除します。
3. IBM Marketing Software マスター・インストーラーを実行します。IBM Marketing Software マスター・インストーラーが開始します。IBM Marketing Software マスター・インストーラーの開始後は、以下の指示に従います。
 - インストール・ディレクトリーの選択を求めるプロンプトが IBM Marketing Software マスター・インストーラーから出されたら、ルート・

インストール・ディレクトリーを選択します (このルート・ディレクトリーの下にある Marketing Platform インストール・ディレクトリーではありません)。

- Marketing Platform データベース接続情報の入力を求めるプロンプトが IBM Marketing Software マスター・インストーラーから出されたら、現行の Marketing Platform システム・テーブルに関する情報を入力します。

IBM Marketing Software マスター・インストーラーが一時停止し、Marketing Platform インストーラーが開始します。

- Marketing Platform インストーラーの実行中に、以下のステップを実行します。
 - インストール・ディレクトリーを求めるプロンプトが Marketing Platform インストーラーから出されたら、現行の Marketing Platform インストールのディレクトリー (通常 Platform という名前) を選択します。
 - インストーラーが、Marketing Platform の前のインストール済み環境のバックアップ・コピーを作成することを許可します。
 - 「手動データベース・セットアップ」を選択します。
 - 「**Platform** の構成の実行」チェック・ボックスをクリアします。
 - インストール・ウィザードの残りのステップに従い、要求される情報を入力します。
- システム・テーブルに対して以下のスクリプトを実行します。 *DB_Type* は、データベースのタイプです。

表 14. バージョン 9.1.1 からアップグレードするための SQL スクリプト

ファイル詳細	ファイルの場所
ManagerSchema_DB_Type_10upg.sql	Marketing Platform インストール済み環境の db¥upgrade912to10 ディレクトリー
DB_Type_QRTZ_Scheduler_10_upgrade_Script.sql	Marketing Platform インストール済み環境の db¥upgrade912to10 ディレクトリー
ManagerSchema_DB_Type_10002.sql	Marketing Platform インストール済み環境の db¥upgrade10001to10002 ディレクトリー
ManagerSchema_DB_Type_101.sql	Marketing Platform インストール済み環境の db¥upgrade10002to101 ディレクトリー

- populateDb ユーティリティを使用して、システム・テーブルにデフォルトの Marketing Platform 構成プロパティー、ユーザーとグループ、およびセキュリティーの役割と権限のデータを設定します。

populateDb ユーティリティは、Marketing Platform インストール済み環境の tools¥bin ディレクトリーにあります。コマンド例: populateDb -n Manager

- 以下の説明に従い、configTool ユーティリティを使用して構成プロパティーをインポートします。

重要: 次の表に示す順序でインポートを実行します。

表 15. バージョン 9.1.1 からアップグレードするための構成プロパティ

ファイル詳細	コマンド例
<ul style="list-style-type: none"> ファイル: emm_audit_navigation.xml 場所: Marketing Platform インストール済み環境の conf ディレクトリー 目的: 監査イベント・レポートの「分析」 > 「Marketing Platform」メニュー項目のインポート 	<pre>configTool.bat -i -p "Affinium suite uiNavigation mainMenu Analytics" -f C:%Unica%\Platform%conf% emm_audit_navigation.xml</pre>
<ul style="list-style-type: none"> ファイル: APISecurity.xml 場所: Marketing Platform インストール済み環境の conf%upgrade911to912 ディレクトリー 目的: IBM Marketing Platform セキュリティー API 管理 (API management) 構成ノードのインポート 	<pre>configTool.bat -i -p "Affinium suite security" -f C:%Unica%\Platform%conf%upgrade911to912% APISecurity.xml</pre>
<ul style="list-style-type: none"> ファイル: APISecurity.xml 場所: Marketing Platform インストール済み環境の conf%upgrade912to10 ディレクトリー 目的: IBM Marketing Platform セキュリティー API 管理 (API management) 構成ノードのインポート 	<pre>configTool.bat -vp -p "Affinium suite security" -f C:%Unica%\Platform%conf%upgrade912to10% APISecurity.xml</pre> <p>このバージョンの APISecurity.xml ファイルは、前の行に示しているものとは別のファイルであり、場所も異なることに注意してください</p>
<ul style="list-style-type: none"> ファイル: SAMLAuthentication.xml 場所: Marketing Platform インストール済み環境の conf%upgrade912to10 ディレクトリー 目的: 「IBM Marketing Platform セキュリティー SAML2.0」構成ノードのインポート 	<pre>configTool.bat -vp -p "Affinium suite security" -f C:%Unica%\Platform%conf%upgrade912to10% SAMLAuthentication.xml</pre>
<ul style="list-style-type: none"> ファイル: SAMLAuthenticationDetails.xml 場所: Marketing Platform インストール済み環境の conf%upgrade912to10 ディレクトリー 目的: 「IBM Marketing Platform セキュリティー ログイン方法の詳細 SAML 2.0」構成ノードのインポート 	<pre>configTool.bat -vp -p "Affinium suite security loginModes" -f C:%Unica%\Platform%conf%upgrade912to10% SAMLAuthenticationDetails.xml</pre>
<ul style="list-style-type: none"> ファイル: ExternalScheduler.xml 場所: Marketing Platform インストール済み環境の conf%upgrade912to10 ディレクトリー 目的: 「IBM Marketing Platform スケジューラー スケジュール登録 (Scheduler registrations) IBM Marketing Platform」構成ノードのインポート 	<pre>configTool.bat -vp -p "Affinium suite scheduler taskRegistrations" -f C:%Unica%\Platform%conf%upgrade912to10% ExternalScheduler.xml</pre>
<ul style="list-style-type: none"> ファイル: JWTAuthentication.xml 場所: Marketing Platform インストール済み環境の conf%upgrade912to10 ディレクトリー 目的: 「IBM Marketing Platform セキュリティー JWT 認証 (JWT authentication)」構成ノードのインポート 	<pre>configTool.bat -vp -p "Affinium suite security" -f C:%Unica%\Platform%conf%upgrade912to10% JWTAuthentication.xml</pre>

表 15. バージョン 9.1.1 からアップグレードするための構成プロパティ (続き)

ファイル詳細	コマンド例
<ul style="list-style-type: none"> ファイル: SecureSuiteStaticContent.xml 場所: Marketing Platform インストール済み環境の conf¥upgrade912to10 ディレクトリー 目的: 「IBM Marketing Platform」構成ノードの下の「すべてのアプリケーションの静的コンテンツにセキュリティを適用 (Apply security on static content for all applications)」プロパティのインポート 	<pre>configTool.bat -vp -p "Affinium suite" -f C:¥Unica¥Platform¥conf¥upgrade912to10¥ SecureSuiteStaticContent.xml</pre>
<ul style="list-style-type: none"> ファイル: APISecurity_interactCollection.xml 場所: Marketing Platform インストール済み環境の conf¥upgrade10to101 ディレクトリー 目的: 「IBM Marketing Platform セキュリティー API 管理 IBM Campaign」構成ノードのインポート 	<pre>configTool.bat -vp -p "Affinium suite security apiSecurity campaign" -f <Platform_Home>¥conf¥upgrade10to101¥ APISecurity_interactCollection.xml</pre>
<ul style="list-style-type: none"> ファイル: APISecurity_triggeredMessages.xml 場所: Marketing Platform インストール済み環境の conf¥upgrade10to101 ディレクトリー 目的: 「IBM Marketing Platform セキュリティー API 管理 IBM Campaign」構成ノードのインポート 	<pre>configTool.bat -vp -p "Affinium suite security apiSecurity campaign" -f <Platform_Home>¥conf¥upgrade10to101¥ APISecurity_triggeredMessages.xml</pre>
<ul style="list-style-type: none"> ファイル: supportServer_config.xml 場所: Marketing Platform インストール済み環境の conf¥upgrade10to101 ディレクトリー 目的: 「IBM Marketing Software」構成ノードのインポート 	<pre>configTool.bat -vp -p "Affinium" -f <Platform_Home>¥conf¥upgrade10to101¥ supportServer_config.xml</pre>

8. 前のステップで構成プロパティをインポートしたら、変更を適用するために、Marketing Platform を配置した Web アプリケーション・サーバーを再始動してください。
9. 以下のステップを実行して、「ヘルプ」>「バージョン情報」ページを更新します。
 - a. **configTool** ユーティリティーを使用して、「**Affinium** | **Manager** | **about**」カテゴリをエクスポートします。

注: 「**Affinium** | **Manager** | **about**」カテゴリは、非表示としてマークされているので、「構成」ページには表示されません。

例 (Windows):

```
configTool.bat -x -p "Affinium|Manager|about" -f
"C:¥Unica¥Platform¥conf¥about.xml"
```

- b. 直前で作成したエクスポート XML ファイル (例の about.xml) を編集して、バージョン番号および表示名を変更します。

releaseNumber プロパティを見つけ、値を Marketing Platform の現行バージョンに変更します。copyright プロパティの値を該当する著作権

の年に変更します。以下の例では、リリース番号を 9.1.1.0.0 から 10.1.0.0.0 に変更し、著作権を 2017 に変更します。

```
<property name="releaseNumber" type="string">
<displayNameKey>about.releaseNumber</displayNameKey>
<value>9.1.1.0.0.build_number</value>
</property>
</property>
<property id="541" name="copyright" type="string_property" width="40">
<value>2016</value>
</property>
```

- c. **configTool** ユーティリティーを使用して、変更されたファイルをインポートします。

-o オプションを使用して、ノードを上書きする必要があります。インポートする際には、親ノードを指定する必要があります。例 (Windows):

```
configTool.bat -vp -i -p "Affinium|Manager" -f
"C:¥Unica¥Platform¥conf¥about.xml" -o
```

- 10. 59 ページの『第 10 章 Marketing Platform の配置』の説明に従って、インストール済み環境を配置して、検証します。

第 8 章 手動マイグレーションによるバージョン 9.1.2 からのアップグレード

Marketing Platform アップグレード・インストーラーにより、アップグレードに必要なすべてのデータ・マイグレーションを自動的に実行できます。ただし、組織のポリシーで自動的なマイグレーションが許可されない場合、Marketing Platform を手動でアップグレードするためのマイグレーション手順を実行する必要があります。

始める前に

同じディレクトリー内に以下のインストーラーがあることを確認します。

- IBM Marketing Software マスター・インストーラー
- Marketing Platform インストーラー

Marketing Platform バージョン 10.1 に手動でアップグレードする場合、SQL スクリプトを実行し、コマンド・ライン・ユーティリティーをいくつか実行してシステム・テーブルにデータを設定する必要があります。Marketing Platform のインストール済み環境が正常に機能し、ユーティリティーを実行できることを確認してください。これらのユーティリティーの使用に関する詳しい情報 (共通タスクのコマンド例を含む) は、以下のトピックで参照できます。

- 80 ページの『populateDb』
- 70 ページの『configTool』

ユーティリティーは、Marketing Platform インストール済み環境の下の `tools\bin` ディレクトリーにあります。

他のバージョンからのアップグレードに関する情報は、13 ページの『Marketing Platform のアップグレードのシナリオ』を参照してください。

手順

1. Marketing Platform システム・テーブル・データベースのバックアップ・コピーを作成します。

重要: このステップはスキップしないでください。アップグレード操作が失敗した場合、データベースをロールバックすることはできず、データが破損します。

2. Marketing Platform 配置を配置解除します。
3. IBM Marketing Software マスター・インストーラーを実行します。IBM Marketing Software マスター・インストーラーが開始します。IBM Marketing Software マスター・インストーラーの開始後は、以下の指示に従います。
 - インストール・ディレクトリーの選択を求めるプロンプトが IBM Marketing Software マスター・インストーラーから出されたら、ルート・

インストール・ディレクトリーを選択します (このルート・ディレクトリーの下にある Marketing Platform インストール・ディレクトリーではありません)。

- Marketing Platform データベース接続情報の入力を求めるプロンプトが IBM Marketing Software マスター・インストーラーから出されたら、現行の Marketing Platform システム・テーブルに関する情報を入力します。

IBM Marketing Software マスター・インストーラーが一時停止し、Marketing Platform インストーラーが開始します。

- Marketing Platform インストーラーの実行中に、以下のステップを実行します。
 - インストール・ディレクトリーを求めるプロンプトが Marketing Platform インストーラーから出されたら、現行の Marketing Platform インストールのディレクトリー (通常 Platform という名前) を選択します。
 - インストーラーが、Marketing Platform の前のインストール済み環境のバックアップ・コピーを作成することを許可します。
 - 「手動データベース・セットアップ」を選択します。
 - 「**Platform** の構成の実行」チェック・ボックスをクリアします。
 - インストール・ウィザードの残りのステップに従い、要求される情報を入力します。
- システム・テーブルに対して以下のスクリプトを実行します。 *DB_Type* は、データベースのタイプです。

表 16. バージョン 9.1.2 からアップグレードするための SQL スクリプト

ファイル詳細	ファイルの場所
ManagerSchema_DB_Type_10upg.sql	Marketing Platform インストール済み環境の db¥upgrade912to10 ディレクトリー
DB_Type_QRTZ_Scheduler_10_upgrade_Script.sql	Marketing Platform インストール済み環境の db¥upgrade912to10 ディレクトリー
ManagerSchema_DB_Type_10002.sql	Marketing Platform インストール済み環境の db¥upgrade10001to10002 ディレクトリー
ManagerSchema_DB_Type_101.sql	Marketing Platform インストール済み環境の db¥upgrade10002to101 ディレクトリー

- populateDb ユーティリティを使用して、システム・テーブルにデフォルトの Marketing Platform 構成プロパティー、ユーザーとグループ、およびセキュリティーの役割と権限のデータを設定します。

populateDb ユーティリティは、Marketing Platform インストール済み環境の tools¥bin ディレクトリーにあります。コマンド例: populateDb -n Manager

- 以下の説明に従い、configTool ユーティリティを使用して構成プロパティーをインポートします。

重要: 次の表に示す順序でインポートを実行します。

表 17. バージョン 9.1.2 からアップグレードするための構成プロパティ

ファイル詳細	コマンド例
<ul style="list-style-type: none"> ファイル: APISecurity.xml 場所: Marketing Platform インストール済み環境の conf¥upgrade912to10 ディレクトリー 目的: IBM Marketing Platform セキュリティー API 管理 (API management) 構成ノードのインポート 	<pre>configTool.bat -vp -p "Affinium suite security" -f C:¥Unica¥Platform¥conf¥upgrade912to10¥ APISecurity.xml</pre>
<ul style="list-style-type: none"> ファイル: SAMLAuthentication.xml 場所: Marketing Platform インストール済み環境の conf¥upgrade912to10 ディレクトリー 目的: 「IBM Marketing Platform セキュリティー SAML2.0」 構成ノードのインポート 	<pre>configTool.bat -vp -p "Affinium suite security" -f C:¥Unica¥Platform¥conf¥upgrade912to10¥ SAMLAuthentication.xml</pre>
<ul style="list-style-type: none"> ファイル: SAMLAuthenticationDetails.xml 場所: Marketing Platform インストール済み環境の conf¥upgrade912to10 ディレクトリー 目的: 「IBM Marketing Platform セキュリティー ログイン方法の詳細 SAML 2.0」 構成ノードのインポート 	<pre>configTool.bat -vp -p "Affinium suite security loginModes" -f C:¥Unica¥Platform¥conf¥upgrade912to10¥ SAMLAuthenticationDetails.xml</pre>
<ul style="list-style-type: none"> ファイル: ExternalScheduler.xml 場所: Marketing Platform インストール済み環境の conf¥upgrade912to10 ディレクトリー 目的: 「IBM Marketing Platform スケジューラー スケジュール登録 (Scheduler registrations) IBM Marketing Platform」 構成ノードのインポート 	<pre>configTool.bat -vp -p "Affinium suite scheduler taskRegistrations" -f C:¥Unica¥Platform¥conf¥upgrade912to10¥ ExternalScheduler.xml</pre>
<ul style="list-style-type: none"> ファイル: JWTAuthentication.xml 場所: Marketing Platform インストール済み環境の conf¥upgrade912to10 ディレクトリー 目的: 「IBM Marketing Platform セキュリティー JWT 認証 (JWT authentication)」 構成ノードのインポート 	<pre>configTool.bat -vp -p "Affinium suite security" -f C:¥Unica¥Platform¥conf¥upgrade912to10¥ JWTAuthentication.xml</pre>
<ul style="list-style-type: none"> ファイル: SecureSuiteStaticContent.xml 場所: Marketing Platform インストール済み環境の conf¥upgrade912to10 ディレクトリー 目的: 「IBM Marketing Platform」 構成ノードの下の 「すべてのアプリケーションの静的コンテンツにセキュリティを適用 (Apply security on static content for all applications)」 プロパティのインポート 	<pre>configTool.bat -vp -p "Affinium suite" -f C:¥Unica¥Platform¥conf¥upgrade912to10¥ SecureSuiteStaticContent.xml</pre>
<ul style="list-style-type: none"> ファイル: APISecurity_interactCollection.xml 場所: Marketing Platform インストール済み環境の conf¥upgrade10to101 ディレクトリー 目的: 「IBM Marketing Platform セキュリティー API 管理 IBM Campaign」 構成ノードのインポート 	<pre>configTool.bat -vp -p "Affinium suite security apiSecurity campaign" -f <Platform_Home>¥conf¥upgrade10to101¥ APISecurity_interactCollection.xml</pre>

表 17. バージョン 9.1.2 からアップグレードするための構成プロパティ (続き)

ファイル詳細	コマンド例
<ul style="list-style-type: none"> ファイル: APISecurity_triggeredMessages.xml 場所: Marketing Platform インストール済み環境の conf¥upgrade10to101 ディレクトリー 目的: 「IBM Marketing Platform セキュリティー API 管理 IBM Campaign」 構成ノードのインポート 	<pre>configTool.bat -vp -p "Affinium suite security apiSecurity campaign" -f <Platform_Home>¥conf¥upgrade10to101¥ APISecurity_triggeredMessages.xml</pre>
<ul style="list-style-type: none"> ファイル: supportServer_config.xml 場所: Marketing Platform インストール済み環境の conf¥upgrade10to101 ディレクトリー 目的: 「IBM Marketing Software」 構成ノードのインポート 	<pre>configTool.bat -vp -p "Affinium" -f <Platform_Home>¥conf¥upgrade10to101¥ supportServer_config.xml</pre>

8. 前のステップで構成プロパティをインポートしたら、変更を適用するために、Marketing Platform を配置した Web アプリケーション・サーバーを再起動してください。
9. 以下のステップを実行して、「ヘルプ」 > 「バージョン情報」 ページを更新します。
 - a. **configTool** ユーティリティーを使用して、「Affinium | Manager | about」 カテゴリーをエクスポートします。

注: 「Affinium | Manager | about」 カテゴリーは、非表示としてマークされているので、「構成」 ページには表示されません。

例 (Windows):

```
configTool.bat -x -p "Affinium|Manager|about" -f
"C:¥Unica¥Platform¥conf¥about.xml"
```

- b. 直前で作成したエクスポート XML ファイル (例の about.xml) を編集して、バージョン番号および表示名を変更します。

releaseNumber プロパティを見つけ、値を Marketing Platform の現行バージョンに変更します。copyright プロパティの値を該当する著作権の年に変更します。以下の例では、リリース番号を 9.1.2.0.0 から 10.1.0.0.0 に変更し、著作権を 2017 に変更します。

```
<property name="releaseNumber" type="string">
<displayNameKey>about.releaseNumber</displayNameKey>
<value>9.1.2.0.0.build_number</value>
</property>
</property>
<property id="541" name="copyright" type="string_property" width="40">
<value>2016</value>
</property>
```

- c. **configTool** ユーティリティーを使用して、変更されたファイルをインポートします。

-o オプションを使用して、ノードを上書きする必要があります。インポートする際には、親ノードを指定する必要があります。例 (Windows):

```
configTool.bat -vp -i -p "Affinium|Manager" -f "about.xml" -o
```

10. 59 ページの『第 10 章 Marketing Platform の配置』の説明に従って、インストール済み環境を配置して、検証します。

第 9 章 手動マイグレーションによるバージョン 10.0.0 からのアップグレード

Marketing Platform アップグレード・インストーラーにより、アップグレードに必要なすべてのデータ・マイグレーションを自動的に実行できます。ただし、組織のポリシーで自動的なマイグレーションが許可されない場合、Marketing Platform を手動でアップグレードするためのマイグレーション手順を実行する必要があります。

始める前に

同じディレクトリー内に以下のインストーラーがあることを確認します。

- IBM Marketing Software マスター・インストーラー
- Marketing Platform インストーラー

Marketing Platform バージョン 10.1 に手動でアップグレードする場合、SQL スクリプトを実行し、コマンド・ライン・ユーティリティーをいくつか実行してシステム・テーブルにデータを設定する必要があります。Marketing Platform のインストール済み環境が正常に機能し、ユーティリティーを実行できることを確認してください。これらのユーティリティーの使用に関する詳しい情報 (共通タスクのコマンド例を含む) は、以下のトピックで参照できます。

- 80 ページの『populateDb』
- 70 ページの『configTool』

ユーティリティーは、Marketing Platform インストール済み環境の下の `tools\bin` ディレクトリーにあります。

他のバージョンからのアップグレードに関する情報は、13 ページの『Marketing Platform のアップグレードのシナリオ』を参照してください。

手順

1. Marketing Platform システム・テーブル・データベースのバックアップ・コピーを作成します。

重要: このステップはスキップしないでください。アップグレード操作が失敗した場合、データベースをロールバックすることはできず、データが破損します。

2. Marketing Platform 配置を配置解除します。
3. IBM Marketing Software マスター・インストーラーを実行します。IBM Marketing Software マスター・インストーラーが開始します。IBM Marketing Software マスター・インストーラーの開始後は、以下の指示に従います。
 - インストール・ディレクトリーの選択を求めるプロンプトが IBM Marketing Software マスター・インストーラーから出されたら、ルート・

インストール・ディレクトリーを選択します (このルート・ディレクトリーの下にある Marketing Platform インストール・ディレクトリーではありません)。

- Marketing Platform データベース接続情報の入力を求めるプロンプトが IBM Marketing Software マスター・インストーラーから出されたら、現行の Marketing Platform システム・テーブルに関する情報を入力します。

IBM Marketing Software マスター・インストーラーが一時停止し、Marketing Platform インストーラーが開始します。

- Marketing Platform インストーラーの実行中に、以下のステップを実行します。
 - インストール・ディレクトリーを求めるプロンプトが Marketing Platform インストーラーから出されたら、現行の Marketing Platform インストールのディレクトリー (通常 Platform という名前) を選択します。
 - インストーラーが、Marketing Platform の前のインストール済み環境のバックアップ・コピーを作成することを許可します。
 - 「手動データベース・セットアップ」を選択します。
 - 「**Platform** の構成の実行」チェック・ボックスをクリアします。
 - インストール・ウィザードの残りのステップに従い、要求される情報を入力します。
- システム・テーブルに対して以下のスクリプトを実行します。 *DB_Type* は、データベースのタイプです。

表 18. バージョン 10.0.0 からアップグレードするための SQL スクリプト

ファイル詳細	ファイルの場所
ManagerSchema_DB_Type_10002.sql	Marketing Platform インストール済み環境の db¥upgrade10001to10002 ディレクトリー
ManagerSchema_DB_Type_101.sql	Marketing Platform インストール済み環境の db¥upgrade10002to101 ディレクトリー

- populateDb ユーティリティを使用して、システム・テーブルにデフォルトの Marketing Platform 構成プロパティー、ユーザーとグループ、およびセキュリティーの役割と権限のデータを設定します。

populateDb ユーティリティは、Marketing Platform インストール済み環境の tools¥bin ディレクトリーにあります。コマンド例: populateDb -n Manager

- 以下の説明に従い、configTool ユーティリティを使用して構成プロパティーをインポートします。

重要: 次の表に示す順序でインポートを実行します。

表 19. バージョン 10.0.0 からアップグレードするための構成プロパティ

ファイル詳細	コマンド例
<ul style="list-style-type: none"> ファイル: APISecurity_interactCollection.xml 場所: Marketing Platform インストール済み環境の conf¥upgrade10to101 ディレクトリー 目的: 「IBM Marketing Platform セキュリティー API 管理 IBM Campaign」 構成ノードのインポート 	<pre>configTool.bat -vp -p "Affinium suite security apiSecurity campaign" -f <Platform_Home>¥conf¥upgrade10to101¥ APISecurity_interactCollection.xml</pre>
<ul style="list-style-type: none"> ファイル: APISecurity_triggeredMessages.xml 場所: Marketing Platform インストール済み環境の conf¥upgrade10to101 ディレクトリー 目的: 「IBM Marketing Platform セキュリティー API 管理 IBM Campaign」 構成ノードのインポート 	<pre>configTool.bat -vp -p "Affinium suite security apiSecurity campaign" -f <Platform_Home>¥conf¥upgrade10to101¥ APISecurity_triggeredMessages.xml</pre>
<ul style="list-style-type: none"> ファイル: supportServer_config.xml 場所: Marketing Platform インストール済み環境の conf¥upgrade10to101 ディレクトリー 目的: 「IBM Marketing Software」 構成ノードのインポート 	<pre>configTool.bat -vp -p "Affinium" -f <Platform_Home>¥conf¥upgrade10to101¥ supportServer_config.xml</pre>

8. 前のステップで構成プロパティをインポートしたら、変更を適用するために、Marketing Platform を配置した Web アプリケーション・サーバーを再始動してください。
9. 以下のステップを実行して、「ヘルプ」 > 「バージョン情報」 ページを更新します。
 - a. **configTool** ユーティリティーを使用して、「**Affinium** | **Manager** | **about**」 カテゴリーをエクスポートします。

注: 「**Affinium** | **Manager** | **about**」 カテゴリーは、非表示としてマークされているので、「構成」 ページには表示されません。

例 (Windows):

```
configTool.bat -x -p "Affinium|Manager|about" -f
"C:¥Unica¥Platform¥conf¥about.xml"
```

- b. 直前で作成したエクスポート XML ファイル (例の about.xml) を編集して、バージョン番号および表示名を変更します。

releaseNumber プロパティを見つけ、値を Marketing Platform の現行バージョンに変更します。copyright プロパティの値を該当する著作権の年に変更します。以下の例では、リリース番号を 10.0.0.0 から 10.1.0.0 に変更し、著作権を 2017 に変更します。

```
<property name="releaseNumber" type="string">
<displayNameKey>about.releaseNumber</displayNameKey>
<value>10.0.0.0.build_number</value>
</property>
</property>
<property id="541" name="copyright" type="string_property" width="40">
<value>2016</value>
</property>
```

c. **configTool** ユーティリティを使用して、変更されたファイルをインポートします。

-o オプションを使用して、ノードを上書きする必要があります。インポートする際には、親ノードを指定する必要があります。例 (Windows):

```
configTool.bat -vp -i -p "Affinium|Manager" -f "about.xml" -o
```

10. 59 ページの『第 10 章 Marketing Platform の配置』の説明に従って、インストール済み環境を配置して、検証します。

第 10 章 Marketing Platform の配置

Web アプリケーション・サーバーに Marketing Platform を配置するには、一連のガイドラインに従う必要があります。Marketing Platform を WebLogic および WebSphere に配置することを目的とした、別個のガイドラインがあります。

IBM インストーラーを実行する場合、以下のいずれかのアクションを完了しておきます。

- EAR ファイルに Marketing Platform を含める。
- Marketing Platform の WAR ファイル (unica.war) を作成する。

EAR ファイルに他の製品を含めた場合、その EAR ファイルに含まれる製品の個々のインストール・ガイドに示されている、配置のガイドラインに従う必要があります。

ここでは、読者が Web アプリケーション・サーバーの操作方法を知っていることを想定します。「管理」コンソールのナビゲーションなど、詳細については、Web アプリケーション・サーバーの資料を参照してください。

WebLogic 上に Marketing Platform を配置する際のガイドライン

WebLogic アプリケーションに Marketing Platform を配置するには、一連のガイドラインに従う必要があります。

サポートされるバージョンの WebLogic に Marketing Platform 製品を配置する場合には、以下のガイドラインに従ってください。

- IBM Marketing Software 製品は、WebLogic が使用する Java 仮想マシン (JVM) をカスタマイズします。JVM 関連のエラーが発生した場合、IBM Marketing Software 製品に専用の WebLogic インスタンスを作成できます。
- startWebLogic.cmd ファイルを開いて、使用している WebLogic ドメイン用に選択した SDK が、**JAVA_VENDOR** 変数の Sun SDK であることを確認します。

JAVA_VENDOR 変数を Sun (**JAVA_VENDOR=Sun**) に設定する必要があります。

JAVA_VENDOR 変数を **JAVA_VENDOR** に設定することは、JRockit が選択されていることを意味します。JRockit はサポートされていないため、選択する SDK を変更する必要があります。選択する SDK の変更方法については、BEA WebLogic の資料を参照してください。

- Web アプリケーションとして Marketing Platform を配置します。
- IIS プラグインを使用するよう WebLogic を構成する場合は、BEA WebLogic の資料を確認してください。
- インストール済み環境で非 ASCII 文字をサポートする必要がある場合 (例えば、ポルトガル語や、マルチバイト文字を必要とするロケール) は、以下のタスクを実行してください。

1. WebLogic ドメイン・ディレクトリーの下に bin ディレクトリーにある `setDomainEnv` スクリプトを編集して、`JAVA_VENDOR` に `-Dfile.encoding=UTF-8` を追加します。
 2. WebLogic コンソールで、ホーム・ページの「ドメイン」リンクをクリックします。
 3. 「Web アプリケーション」タブで、「実際のパスのアーカイブを有効にする (Archived Real Path Enabled)」チェック・ボックスを選択します。
 4. WebLogic を再始動します。
 5. EAR ファイルまたは `unica.war` ファイルを配置して開始します。
- 実稼働環境に配置している場合は、`setDomainEnv` スクリプトに次の行を追加して、JVM メモリー・ヒープ・サイズ・パラメーターを 1024 に設定します。

```
Set MEM_ARGS=-Xms1024m -Xmx1024m -XX:MaxPermSize=256m
```

WebSphere に Marketing Platform を配置する際のガイドライン

WebSphere に Marketing Platform を配置する際には、一連のガイドラインに従う必要があります。

WebSphere のバージョンが、「IBM Enterprise 製品の推奨されるソフトウェア環境と最小システム要件」の資料に記載されている要件 (必要なフィックスパックを含む) を満たしていることを確認します。WebSphere に Marketing Platform を配置する場合には、以下のガイドラインに従ってください。

- サーバーで以下のカスタム・プロパティーを指定します。
 - 名前: `com.ibm.ws.webcontainer.invokefilterscompatibility`
 - 値: `true`
- WebSphere でのカスタム・プロパティーの設定については、<http://www-01.ibm.com/support/docview.wss?uid=swg21284395> の説明を参照してください。
- IBM EAR ファイルまたは `unica.war` ファイルを、エンタープライズ・アプリケーションとして配置します。EAR ファイルまたは `unica.war` ファイルを配置する際には、JSP コンパイラーの JDK ソース・レベルが Java 17 に設定されていること、および JSP ページが以下の情報に従ってプリコンパイルされていることを確認します。
 - WAR ファイルをブラウズして選択する形式で、「すべてのインストール・オプションとパラメーターを表示」を選択すると、「インストール・オプションの選択」ウィザードが実行されます。
 - 「インストール・オプションの選択」ウィザードのステップ 1 で、「**JavaServer Pages** ファイルのプリコンパイル」を選択します。
 - 「インストール・オプションの選択」ウィザードのステップ 3 で、「**JDK** ソース・レベル」が 17 に設定されていることを確認します。

EAR を配置した場合は、それぞれの WAR ファイルについて「JDK ソース・レベル」を設定してください。

- 「インストール・オプションの選択」ウィザードのステップ 8 で、一致するターゲット・リソースとして「**UnicaPlatformDS**」を選択します。

- 「インストール・オプションの選択」ウィザードのステップ 10 で、コンテキスト・ルートをすべて小文字で /unica に設定する必要があります。
- サーバーの「Web コンテナ設定」>「Web コンテナ」>「セッション管理」セクションで、Cookie を有効にします。配置するアプリケーションごとに、異なるセッション Cookie 名を指定します。以下のいずれかの手順を使用して、Cookie 名を指定します。
 - 「セッション管理」の下にある「セッション管理のオーバーライド」チェック・ボックスを選択します。

IBM Marketing Software 製品用の別個の WAR ファイルを配置する場合、WebSphere コンソールを使用して、サーバーの「アプリケーション」>「エンタープライズ・アプリケーション」> [配置するアプリケーション] > 「セッション管理」> 「Cookie を使用可能にする」> 「Cookie 名」セクションで、固有のセッション Cookie 名を指定します。

IBM Marketing Software 製品用の EAR ファイルを配置する場合、WebSphere コンソールを使用して、サーバーの「アプリケーション」>「エンタープライズ・アプリケーション」> [配置するアプリケーション] > 「モジュール管理 (Module Management)」> [配置するモジュール] > 「セッション管理」> 「Cookie を使用可能にする」> 「Cookie 名」セクションで、固有のセッション Cookie 名を指定します。

- インストール環境で非 ASCII 文字をサポートする必要がある場合 (例えば、ポルトガル語や、マルチバイト文字を必要とするロケール) は、以下の引数を、サーバー・レベルで「汎用 JVM 引数」に追加します。

-Dfile.encoding=UTF-8

-Dclient.encoding.override=UTF-8

ナビゲーションのヒント: 「サーバー」>「アプリケーション・サーバー」>「Java およびプロセス管理」>「プロセス定義」>「Java 仮想マシン」>「汎用 JVM 引数」を選択します。詳しくは、WebSphere の資料を参照してください。

- サーバーの「アプリケーション」>「エンタープライズ・アプリケーション」セクションで、配置した EAR ファイルまたは WAR ファイルを選択してから、「クラス・ロードおよび更新の検出」を選択して、以下のプロパティを指定します。
 - WAR ファイルを配置する場合:
 - 「クラス・ローダーの順序」では、「最初にローカル・クラス・ローダーをロードしたクラス (親は最後)」を選択します。
 - 「WAR クラス・ローダー・ポリシー」では、「アプリケーションの単一クラス・ローダー」を選択します。
 - EAR ファイルを配置する場合:
 - 「クラス・ローダーの順序」では、「最初にローカル・クラス・ローダーをロードしたクラス (親は最後)」を選択します。
 - 「WAR クラス・ローダー・ポリシー」では、「アプリケーションの各 War ファイルのクラス・ローダー」を選択します。

- 配置を開始します。WebSphere のインスタンスが JVM バージョン 1.7 以降を使用するように構成されている場合、タイム・ゾーン・データベースの問題を回避するために、以下のステップを実行します。

1. WebSphere を停止します。
2. IBM Time Zone Update Utility for Java (JTZU) を、以下の IBM Web サイトからダウンロードします。

<http://www.ibm.com/developerworks/java/jdk/dst/index.html>

3. IBM (JTZU) で示される手順に従って、JVM 内のタイム・ゾーン・データを更新します。
 4. WebSphere を再始動します。
- Websphere エンタープライズ・アプリケーションで、ご使用のアプリケーション > 「モジュールの管理 (Manage Modules)」 > ご使用のアプリケーション > 「クラス・ローダー順序」 > 「最初にローカル・クラス・ローダーをロードしたクラス (親は最後)」を選択します。
 - アプリケーションの基本機能の推奨される最小ヒープ・サイズは 512 であり、推奨される最大ヒープ・サイズは 1024 です。

以下のタスクを実行して、ヒープ・サイズを指定します。

1. WebSphere エンタープライズ・アプリケーションで、「サーバー」 > 「WebSphere Application Servers」 > 「server1」 > 「サーバー・インフラストラクチャー (Server Infrastructure)」 > 「Java およびプロセス管理」 > 「プロセス定義」 > 「Java 仮想マシン」を選択します。
2. 初期ヒープ・サイズを 512 に設定します。
3. 最大ヒープ・サイズを 1024 に設定します。

サイズ変更について詳しくは、WebSphere の資料を参照してください。

Marketing Platform のインストール済み環境の検証

Marketing Platform をインストールおよび配置した後で、Marketing Platform のインストール済み環境および配置でエラーが発生していないことを検証する必要があります。検証後、Marketing Platform インストール済み環境を構成することができます。

手順

以下のタスクを実行して、Marketing Platform インストール済み環境を検証します。

1. サポートされる Web ブラウザーで IBM Marketing Software URL にアクセスします。

Marketing Platform をインストールしたときにドメインを入力した場合、URL は以下ようになります (ここで、*host* は Marketing Platform をインストールしたマシン、*domain.com* はホスト・マシンが置かれたドメイン、*port* は Web アプリケーション・サーバーが listen するポート番号です)。

<http://host.domain.com:port/unica>

2. デフォルトの管理者ログイン `asm_admin`、およびパスワード `password` を使ってログインします。

パスワードを変更するよう求められます。既存のパスワードを入力することもできますが、セキュリティのために新しいパスワードを選択してください。

デフォルトのホーム・ページはダッシュボードですが、後でこれを構成します。

3. 「設定」メニューの下で「ユーザー」、「ユーザー・グループ」、「ユーザー権限」の各ページを調べて、「*Marketing Platform* 管理者ガイド」で説明されている構成済みユーザー、グループ、役割、および権限が存在することを確認します。
4. 新しいユーザーとグループを追加して、そのデータが *Marketing Platform* システム・テーブル・データベースに入力されたことを確認します。
5. 「設定」メニューの下で「構成」ページを調べて、*Marketing Platform* の構成プロパティが存在することを確認します。

次のタスク

さらに、追加の構成タスクがあります。ダッシュボードの構成、IBM アプリケーションへのユーザー・アクセスのセットアップ、LDAP または Web アクセス制御システムとの統合 (オプション) などです。「*IBM Marketing Platform* 管理者ガイド」の説明を参照してください。

第 11 章 配置後の Marketing Platform の構成

Marketing Platform の基本インストールでは、IBM Marketing Software レポート機能を使用する場合、またはパスワード・ポリシーを使用する場合には、Marketing Platform を配置後に構成する必要があります。

IBM Marketing Software レポート機能を使用する場合は、「*IBM Marketing Software Reports* インストールおよび構成ガイド」を参照してください。特定のパスワード・ポリシーの使用を検討している場合、『デフォルト・パスワード設定』を参照して、デフォルトのパスワード設定を変更する必要があるかどうかを判断してください。

オプションで、「構成」ページにある追加的な Marketing Platform プロパティを使用すると、重要な機能を調整することができます。これらの機能について、および設定方法については、プロパティのコンテキスト・ヘルプまたは「*IBM Marketing Platform* 管理者ガイド」を参照してください。

SSL 環境に必要な追加の構成

10.0 リリース以降、IBM Marketing Software 製品の C++ コンポーネントの SSL は、OpenSSL ではなく GSKit によってサポートされます。

バージョン 10.0 より前の IBM Marketing Software 製品で SSL for C++ のコンポーネント (Campaign リスナーや Contact Optimization サーバーなど) を実装した場合は、それらのコンポーネントについて以下のことを実行する必要があります。

- GSKit 鍵ストア (.kdb ファイル) を作成する。
- GSKit を使用して新しい証明書を作成する。
- 新しい証明書 (および、ルート証明書が存在する場合はルート証明書) を、この GSKit 鍵ストアに追加する。
- 新しい証明書を使用するように、環境を構成する。

詳しくは、「*IBM Marketing Platform* 管理者ガイド」の第 14 章『片方向 SSL の実装』を参照してください。

デフォルト・パスワード設定

IBM Marketing Software では、パスワードの使用に関するデフォルト設定が用意されています。ただし、IBM Marketing Software の「構成」ページの「一般」> 「パスワード設定」カテゴリを使用して、デフォルト設定を変更し、パスワード・ポリシーを作成することができます。

デフォルトのパスワード設定は、IBM Marketing Software 内で作成されたユーザーのパスワードに適用されます。この設定は、外部システム (Windows Active Directory、サポートされる LDAP ディレクトリー・サーバー、または Web アクセス制御サーバーなど) との同期を介してインポートされたユーザーには適用され

ません。内部ユーザーと外部ユーザーの両方に影響する「許可されるログイン再試行の最大回数」の設定は例外です。またこのプロパティは、外部システムの同様の制約事項を無効にするわけではありません。

以下の設定は、その IBM Marketing Software のデフォルト・パスワード設定です。

- 許可されるログイン再試行の最大回数 - 3
- パスワード履歴の数 - 0
- 有効期間 (日数) - 30
- 空白のパスワードを許可 - True
- ユーザー名と同じパスワードを許可 - True
- 最小限必要な数字の数 - 0
- 最小限必要な英字の数 - 0
- 最小限必要なパスワードの長さ - 4

デフォルト設定の説明については、オンライン・ヘルプを参照してください。

第 12 章 Marketing Platform ユーティリティー

このセクションでは、Marketing Platform の概要を示します。これには、すべてのユーティリティーに当てはまり、個別のユーティリティーの説明では扱われていない詳細が含まれます。

ユーティリティーの場所

Marketing Platform ユーティリティーは、Marketing Platform インストールの下の `tools/bin` ディレクトリーにあります。

ユーティリティーのリストと説明

Marketing Platform は、以下のユーティリティーを提供します。

- 70 ページの『`alertConfigTool`』 - IBM Marketing Software 製品のアラートと構成を登録します。
- 70 ページの『`configTool`』 - 構成設定 (製品の登録を含む) のインポート、エクスポート、および削除を行います。
- 75 ページの『`datafilteringScriptTool`』 - データ・フィルターを作成します。
- 76 ページの『`encryptPasswords`』 - パスワードを暗号化および保管します。
- 78 ページの『`partitionTool`』 - パーティションのデータベース・エントリーを作成します。
- 80 ページの『`populateDb`』 - Marketing Platform データベースにデータを設定します。
- 81 ページの『`restoreAccess`』 - ユーザーに `platformAdminRole` 役割を復元します。
- 83 ページの『`scheduler_console_client`』 - トリガーを `listen` するように構成されている IBM Marketing Software のスケジューラー・ジョブをリストまたは開始します。

Marketing Platform ユーティリティーを実行するための前提条件

以下は、すべての Marketing Platform ユーティリティーを実行するための前提条件です。

- すべてのユーティリティーは、それらが存在するディレクトリー (デフォルトでは、Marketing Platform インストールの下の `tools/bin` ディレクトリー) から実行します。
- UNIX では、ベスト・プラクティスは、Marketing Platform が配置されているアプリケーション・サーバーを実行するユーザー・アカウントと同じユーザー・アカウントでユーティリティーを実行することです。異なるユーザー・アカウントでユーティリティーを実行する場合、`platform.log` ファイルの権限を調整して、そのユーザー・アカウントがこのファイルに書き込めるようにします。権限を調整しないと、ユーティリティーはログ・ファイルに書き込むことができず、ツールは正しく機能しているのにエラー・メッセージが表示される可能性があります。

ユーティリティーの認証

例えば configTool などの IBM Marketing Software バックエンド・ユーティリティーのようなユーティリティーは、システム管理者が使用するよう設計されており、起動するためにはホスト・サーバーへの物理アクセスを必要とします。そのため、これらのユーティリティーの認証は、UI 認証メカニズムから独立して設計されています。これらのユーティリティーへのアクセスは、Marketing Platform 管理者特権のあるユーザーが行えます。これらのユーティリティーに対するアクセスは Marketing Platform でローカルに定義され、その同じ定義に基づいて認証されることになっています。

接続の問題のトラブルシューティング

encryptPasswords を除くすべての Marketing Platform ユーティリティーは、Marketing Platform システム・テーブルと対話します。システム・テーブル・データベースに接続するために、これらのユーティリティーは以下の接続情報を使用します。この情報は、Marketing Platform のインストール時に提供される情報を使ってインストーラーによって設定されます。この情報は、Marketing Platform インストールの下 tools/bin ディレクトリーにある jdbc.properties ファイルに保管されます。

- JDBC ドライバー名
- JDBC 接続 URL (ホスト、ポート、およびデータベース名を含む)
- データ・ソース・ログイン
- データ・ソース・パスワード (暗号化)

さらに、これらのユーティリティーは、Marketing Platform のインストール済み環境の tools/bin ディレクトリーにある setenv スクリプトまたはコマンド行で設定された、JAVA_HOME 環境変数に依存しています。この変数は Marketing Platform インストーラーによって setenv スクリプトで自動的に設定されるはずですが、ユーティリティーの実行に問題がある場合は JAVA_HOME 変数が設定されていることを確認することをお勧めします。JDK は Sun バージョンでなければなりません (例えば WebLogic で入手できる JRockit JDK は不可です)。

特殊文字

オペレーティング・システムで予約文字として指定されている文字は、エスケープする必要があります。予約文字のリストおよびそれをエスケープする方法については、オペレーティング・システムの資料を参照してください。

Marketing Platform ユーティリティーの標準オプション

すべての Marketing Platform ユーティリティーで、以下のオプションを使用できます。

-l logLevel

コンソールに表示されるログ情報のレベルを設定します。オプションは、high、medium、および low です。デフォルトは low です。

-L

コンソール・メッセージのロケールを設定します。デフォルト・ロケールは en_US です。使用可能なオプション値は、Marketing Platform が翻訳されている言語に依存します。ISO 639-1 および ISO 3166 に応じて、ICU ロケール ID を使ってロケールを指定します。

-h

使用法に関する簡潔なメッセージをコンソールに表示します。

-m

このユーティリティのマニュアル・ページをコンソールに表示します。

-v

実行の詳細をコンソールに表示します。

追加マシンでの Marketing Platform ユーティリティのセットアップ

Marketing Platform がインストールされているマシンでは、追加の構成を行わずに Marketing Platform ユーティリティを実行することができます。しかし、ユーティリティをネットワーク上の別のマシンから実行することもできます。この手順では、それを行うために必要なステップについて説明します。

始める前に

この手順を実行するマシンが以下の前提条件を満たしていることを確認してください。

- 正しい JDBC ドライバーがマシンに存在しているか、マシンからアクセス可能でなければなりません。
- マシンに Marketing Platform システム・テーブルへのネットワーク・アクセスがなければなりません。
- マシンに Java ランタイム環境がインストールされているか、マシンからアクセス可能でなければなりません。

手順

1. Marketing Platform システム・テーブルに関する以下の情報を収集します。
 - JDBC ドライバー・ファイルのシステム上の完全修飾パス。
 - Java ランタイム環境のインストール先への完全修飾パス。

インストーラーでのデフォルト値は、IBM Marketing Software のインストール・ディレクトリーの下にインストーラーが置いた、サポートされるバージョンの JRE へのパスです。このデフォルトを受け入れることも、別のパスを指定することもできます。

- データベース・タイプ
- データベース・ホスト
- データベースのポート
- データベース名/システム ID
- データベース・ユーザー名

- データベースのパスワード
2. IBM Marketing Software インストーラーを実行して、Marketing Platform をインストールします。

Marketing Platform システム・テーブルに関して収集したデータベース接続情報を入力します。IBM Marketing Software インストーラーに精通していない場合は、「Campaign インストール・ガイド」または「Marketing Operations インストール・ガイド」を参照してください。

ユーティリティのみをインストールする場合、Marketing Platform Web アプリケーションを配置する必要ありません。

Marketing Platform ユーティリティー

このセクションでは、Marketing Platform ユーティリティーに関する機能詳細、構文、例について説明します。

alertConfigTool

通知タイプは、さまざまな IBM Marketing Software 製品に固有のものです。インストール時またはアップグレード時にインストーラーが自動的に通知タイプを登録しなかった場合は、alertConfigTool ユーティリティーを使用して登録してください。

構文

```
alertConfigTool -i -f importFile
```

コマンド

-i -f importFile

指定した XML ファイルからアラートと通知のタイプをインポートします。

例

- Marketing Platform インストール済み環境の `tools\bin` ディレクトリーにある `Platform_alerts_configuration.xml` という名前のファイルからアラートと通知のタイプをインポートします。

```
alertConfigTool -i -f Platform_alerts_configuration.xml
```

configTool

「構成」ページのプロパティーと値は、Marketing Platform システム・テーブルに保管されます。configTool ユーティリティーを使用して、構成設定をシステム・テーブルにインポートしたり、システム・テーブルからエクスポートしたりできます。

configTool をいつ使用するか

configTool は、次のような目的で使用できます。

- Campaign に備わっているパーティションおよびデータ・ソースのテンプレートをインポートする。その後、構成ページを使って、その変更および複製を行うことができます。
- 製品インストーラーがプロパティをデータベースに自動的に追加できない場合に IBM Marketing Software 製品を登録する (その構成プロパティをインポートする)。
- バックアップ用の構成設定の XML バージョンをエクスポートし、IBM Marketing Software の別のインストールにインポートする。
- 「カテゴリの削除 (**Delete Category**)」リンクを持たないカテゴリを削除する。これを行うには、configTool を使用して構成をエクスポートし、カテゴリを作成する XML を手動で削除し、configTool を使用して、編集された XML をインポートします。

重要: このユーティリティーは、Marketing Platform システム・テーブル・データベース (構成プロパティとその値が含まれている) の `usm_configuration` テーブルと `usm_configuration_values` テーブルを変更します。最良の結果を得るために、それらのテーブルのバックアップ・コピーを作成するか、configTool を使って既存の構成をエクスポートし、生成されるファイルをバックアップしてください。そうすることで、configTool を使ったインポートに失敗した場合に構成を復元することができます。

構文

```
configTool -d -p "elementPath" [-o]
```

```
configTool -i -p "parent ElementPath" -f importFile [-o]
```

```
configTool -x -p "elementPath" -f exportFile
```

```
configTool -vp -p "elementPath" -f importFile [-d]
```

```
configTool -r productName -f registrationFile [-o] configTool -u  
productName
```

コマンド

-d -p "elementPath" [o]

構成プロパティ階層内のパスを指定して、構成プロパティとその設定を削除します。

エレメント・パスには、カテゴリおよびプロパティの内部名が使用されている必要があります。それらを得るには、「構成」ページの目的のカテゴリまたはプロパティを選択して、右のペインにある括弧内に示されているパスを確認します。| 文字を使って構成プロパティ階層のパスを区切り、パスを二重引用符で囲みます。

次のことに注意してください。

- このコマンドで削除できるのは、アプリケーション内のカテゴリおよびプロパティのみで、アプリケーション全体は削除できません。アプリケーション全体を登録解除するには、-u コマンドを使用します。

- 「構成」ページに「カテゴリの削除」リンクがないカテゴリを削除するには、`-o` オプションを使用します。

`-d` を指定した `-vp` コマンドを使用する場合、`configTool` はユーザーが指定するパスにあるすべての下位ノードを削除します (これらのノードが、ユーザーの指定する XML ファイルに含まれていない場合)。

`-i -p "parentElementPath" -f importFile [o]`

指定された XML ファイルから構成プロパティとその設定をインポートします。

インポートするには、カテゴリのインポート先の親要素へのパスを指定します。`configTool` ユーティリティは、パス内で指定するカテゴリの下にプロパティをインポートします。

カテゴリは最上位の下どのレベルにでも追加することができますが、最上位カテゴリと同じレベルにカテゴリを追加することはできません。

親エレメント・パスには、カテゴリおよびプロパティの内部名が使用されている必要があります。これらの内部名は、「構成」ページに移動して、必要なカテゴリまたはプロパティを選択し、右側のペインの括弧内に表示されるパスを調べることによって得ることができます。 | 文字を使って構成プロパティ階層のパスを区切り、パスを二重引用符で囲みます。

`tools/bin` ディレクトリーからの相対的なインポート・ファイル場所を指定するか、ディレクトリーの絶対パスを指定することができます。相対パスを指定した場合、またはパスを指定しない場合、`configTool` は `tools/bin` ディレクトリーから相対的な場所にあるファイルを最初に探します。

デフォルトでこのコマンドは既存のカテゴリを上書きしませんが、`-o` オプションを使用して上書きを強制することができます。

`-x -p "elementPath" -f exportFile`

指定された名前の XML ファイルに構成プロパティとその設定をエクスポートします。

すべての構成プロパティをエクスポートすることも、構成プロパティ階層内のパスを指定することによって特定のカテゴリにエクスポートを制限することもできます。

要素パスにはカテゴリおよびプロパティの内部名を使用する必要があります。これは、「構成」ページに移動し、必要なカテゴリまたはプロパティを選択して、右側のペインで括弧付きで表示されるパスを見ると分かります。 | 文字を使って構成プロパティ階層のパスを区切り、パスを二重引用符で囲みます。

現行ディレクトリーからの相対的なエクスポート・ファイル場所を指定するか、ディレクトリーの絶対パスを指定することができます。ファイル指定に区切り記号 (UNIX の場合は `/`、Windows の場合は `/` または `¥`) が含まれていない場合、`configTool` はファイルを Marketing Platform インストール済み環境の `tools/bin` ディレクトリーの下に作成します。 `xml` 拡張子を付けない場合、`configTool` によってそれが追加されます。

-vp -p "elementPath" -f importFile [-d]

このコマンドは、主に手動アップグレードにおける構成プロパティのインポートに使用されます。新しい構成プロパティが含まれるフィックスパックを適用し、その後アップグレードする場合、手動アップグレード・プロセスの一部として構成ファイルをインポートすると、フィックスパックを適用したときに設定された値がオーバーライドされる場合があります。-vp コマンドを使用すると、インポートを行っても、それ以前に設定された構成値はオーバーライドされません。

重要: configTool ユーティリティーを -vp オプションを指定して使用したら、変更が適用されるように、Marketing Platform がデプロイされている Web アプリケーション・サーバーを再始動する必要があります。

-d を指定した -vp コマンドを使用する場合、configTool はユーザーが指定するパスにあるすべての下位ノードを削除します (これらのノードが、ユーザーの指定する XML ファイルに含まれていない場合)。

-r productName -f registrationFile

アプリケーションを登録します。 tools/bin ディレクトリーに相対する登録ファイルの場所を指定することも、絶対パスを指定することもできます。デフォルトでこのコマンドは既存の構成を上書きしませんが、-o オプションを使用して上書きを強制することができます。 productName パラメーターは、上記にリストされている名前のいずれかでなければなりません。

次のことに注意してください。

- -r コマンドを使用する際、登録ファイルには XML 内の最初のタグとして <application> を指定する必要があります。

Marketing Platform データベースに構成プロパティを挿入するために使用できる他のファイルが、製品と一緒に提供されることがあります。それらのファイルについては、-i コマンドを使用します。最初のタグとして <application> タグがあるファイルだけを -r コマンドとともに使用できます。

- Marketing Platform の登録ファイルの名前は Manager_config.xml で、最初のタグは <Suite> です。新規インストールでこのファイルを登録するには、populateDb ユーティリティーを使用するか、「IBM Marketing Platform インストール・ガイド」にある説明に従って Marketing Platform インストーラーを再実行します。
- 最初のインストールの後、Marketing Platform 以外の製品を再登録するには、configTool を -r コマンドおよび -o を指定して実行して、既存のプロパティを上書きします。

configTool ユーティリティーは、製品の登録または登録解除を行うコマンドのパラメーターとして製品名を使用します。IBM Marketing Software 8.5.0 リリースでは、多くの製品名が変更されました。ただし、configTool によって認識される名前は変更されていません。configTool で使用できる有効な製品名を、現在の製品名とともに以下にリストします。

表 20. *configTool* 登録および登録解除で使用する製品名

製品名	<i>configTool</i> で使用する名前
Marketing Platform	管理者
Campaign	Campaign
Distributed Marketing	Collaborate
eMessage	emessage
Interact	interact
Contact Optimization	Optimize
Marketing Operations	Plan
Opportunity Detect	Detect
IBM SPSS Modeler Advantage Enterprise Marketing Management Edition	SPSS
Digital Analytics	Coremetrics

-u *productName*

productName によって指定されたアプリケーションを登録解除します。製品カテゴリーにパスを含める必要はありません。製品名は必須で、それのみで十分です。このプロセスで、製品のすべてのプロパティと構成設定が削除されます。

オプション

-o

-i または **-r** と共に使用すると、既存のカテゴリーまたは製品登録 (ノード) を上書きします。

-d と共に使用すると、「構成」ページに「カテゴリーの削除」リンクがないカテゴリー (ノード) を削除することができます。

例

- Marketing Platform インストール済み環境の下の *conf* ディレクトリーの *Product_config.xml* という名前のファイルから構成設定をインポートします。

```
configTool -i -p "Affinium" -f Product_config.xml
```

- 提供されている Campaign データ・ソース・テンプレートの 1 つをデフォルトの Campaign パーティションである *partition1* にインポートします。この例では、Oracle データ・ソース・テンプレート *OracleTemplate.xml* が Marketing Platform インストールの *tools/bin* ディレクトリーにあることを前提としています。

```
configTool -i -p "Affinium|Campaign|partitions|partition1|dataSources"
-f OracleTemplate.xml
```

- すべての構成設定を *D:%backups* ディレクトリーの *myConfig.xml* という名前のファイルにエクスポートします。

```
configTool -x -f D:%backups#myConfig.xml
```

- 既存の Campaign パーティション (データ・ソース・エントリーが完備されている) をエクスポートし、それを `partitionTemplate.xml` という名前のファイルに保存し、Marketing Platform インストールのデフォルトの `tools/bin` ディレクトリーに保管します。

```
configTool -x -p "Affinium|Campaign|partitions|partition1" -f
partitionTemplate.xml
```

- Marketing Platform インストール済み環境の下のデフォルトの `tools/bin` ディレクトリーにある `app_config.xml` という名前のファイルを使用して、`productName` という名前のアプリケーションを手動で登録して、このアプリケーションの既存の登録を上書きするように強制します。

```
configTool -r product Name -f app_config.xml -o
```

- `productName` という名前のアプリケーションを登録解除します。

```
configTool -u productName
```

datafilteringScriptTool

`datafilteringScriptTool` ユーティリティーは、XML ファイルを読み取って、Marketing Platform システム・テーブル・データベースのデータ・フィルター・テーブルにデータを設定します。

XML をどのように書くかに応じて、このユーティリティーには使用方法が 2 とおあります。

- XML 要素の 1 つのセットを使用して、フィールド値の一意の組み合わせに基づいてデータ・フィルター (一意の組み合わせごとに 1 つのデータ・フィルター) を自動生成します。
- XML 要素の若干異なるセットを使用して、ユーティリティーによって作成される各データ・フィルターを指定することができます。

XML の作成について詳しくは、「*IBM Marketing Platform 管理者ガイド*」を参照してください。

datafilteringScriptTool を使用する場合

`datafilteringScriptTool` は、新規データ・フィルターを作成するときに使用する必要があります。

前提条件

Marketing Platform を配置し、実行しておく必要があります。

SSL との datafilteringScriptTool の使用

片方向 SSL を使用して Marketing Platform を配置している場合、`datafilteringScriptTool` スクリプトを変更し、ハンドシェイクを実行する SSL オプションを追加する必要があります。スクリプトを変更するには、以下の情報が必要です。

- トラストストア・ファイル名とパス
- トラストストア・パスワード

テキスト・エディターで、datafilteringScriptTool スクリプト (.bat または .sh) を開き、次のような行を見つけます (例は Windows バージョンの場合)。

```
:callexec
```

```
"%JAVA_HOME%\bin\java" -DUNICA_PLATFORM_HOME="%UNICA_PLATFORM_HOME%"
```

```
com.unica.management.client.datafiltering.tool.DataFilteringScriptTool %*
```

この行を次のように編集します (新規テキストが太字で示します)。

myTrustStore.jks および myPassword は、ご自分のトラストストア・パスとファイル名およびトラストストア・パスワードに置き換えてください。

```
:callexec
```

```
SET SSL_OPTIONS=-Djavax.net.ssl.keyStoreType="JKS"
```

```
-Djavax.net.ssl.trustStore="C:\security\myTrustStore.jks"
```

```
-Djavax.net.ssl.trustStorePassword=myPassword
```

```
"%JAVA_HOME%\bin\java" -DUNICA_PLATFORM_HOME="%UNICA_PLATFORM_HOME%"
```

```
%SSL_OPTIONS%
```

```
com.unica.management.client.datafiltering.tool.DataFilteringScriptTool %*
```

構文

```
datafilteringScriptTool -r pathfile
```

コマンド

```
-r path_file
```

指定された XML ファイルからデータ・フィルターの仕様をインポートします。インストールの下に tools/bin ディレクトリーにファイルがない場合、パスを指定し、*path_file* パラメーターを二重引用符で囲みます。

例

- C:\unica\xml ディレクトリーにあるファイル collaborateDataFilters.xml を使用して、データ・フィルター・システム・テーブルにデータを設定します。

```
datafilteringScriptTool -r "C:\unica\xml\collaborateDataFilters.xml"
```

encryptPasswords

encryptPasswords ユーティリティーは、Marketing Platform が内部的に使用する 2 つのパスワードのいずれかを暗号化して保管するために使用します。

ユーティリティーは、以下の 2 つのパスワードを暗号化できます。

- Marketing Platform がシステム・テーブルにアクセスするために使用するパスワード。このユーティリティーは、既存の暗号化パスワード (Marketing

Platform インストールの下の `tools\bin` ディレクトリーにある `jdbc.properties` ファイルに保管されている) を新規パスワードで置き換えます。

- Marketing Platform または Web アプリケーション・サーバーによって提供されるデフォルトの証明書以外の証明書で SSL を一緒に使用するよう構成されたときに、Marketing Platform によって使用される鍵ストア・パスワード。証明書は、自己署名証明書か認証局からの証明書のいずれかになります。

encryptPasswords を使用する場合

`encryptPasswords` は、以下の理由で使用します。

- Marketing Platform システム・テーブル・データベースにアクセスするために使用されるアカウントのパスワードを変更する場合。
- 自己署名証明書を作成したとき、または認証局から証明書を取得した場合。

前提条件

- `encryptPasswords` を実行して新規データベース・パスワードを暗号化して保管する前に、Marketing Platform インストールの下の `tools/bin` ディレクトリーにある `jdbc.properties` ファイルのバックアップ・コピーを作成しておきます。
- `encryptPasswords` を実行して鍵ストア・パスワードを暗号化して保管する前に、デジタル証明書を作成または取得し、鍵ストア・パスワードを覚えておく必要があります。

構文

```
encryptPasswords -d databasePassword
```

```
encryptPasswords -k keystorePassword
```

コマンド

-d *databasePassword*

データベース・パスワードを暗号化します。

-k *keystorePassword*

鍵ストア・パスワードを暗号化し、ファイル `pfile` に保管します。

例

- Marketing Platform をインストールした時に、システム・テーブル・データベース・アカウントのログインが `myLogin` に設定されています。インストール後のある時に、このアカウントのパスワードを `newPassword` に変更します。`encryptPasswords` を以下のように実行し、データベース・パスワードを暗号化して保管します。

```
encryptPasswords -d newPassword
```

- SSL を使用するように IBM Marketing Software アプリケーションを構成し、デジタル証明書を作成または取得しました。 `encryptPasswords` を以下のように実行し、鍵ストア・パスワードを暗号化および保管します。

```
encryptPasswords -k myPassword
```

partitionTool

パーティションは Campaign ポリシーおよび役割と関連付けられます。これらのポリシーおよび役割、およびそのパーティションとの関連付けは Marketing Platform システム・テーブルに保管されます。 `partitionTool` ユーティリティーは、パーティションの基本ポリシーおよび役割情報で Marketing Platform システム・テーブルをシードします。

partitionTool を使用する場合

作成するパーティションごとに、`partitionTool` を使用して、基本ポリシーおよび役割情報で Marketing Platform システム・テーブルをシードする必要があります。

Campaign での複数パーティションの設定について詳しくは、ご使用のバージョンの Campaign に該当するインストール・ガイドを参照してください。

特殊文字とスペース

パーティションの説明、またはユーザー、グループ、あるいはパーティションの名前にスペースが含まれる場合、それらを二重引用符で囲む必要があります。

構文

```
partitionTool -c -s sourcePartition -n newPartitionName [-u  
admin_user_name] [-d partitionDescription] [-g groupName]
```

コマンド

`partitionTool` ユーティリティーでは、以下のコマンドを使用できます。

-c

-s オプションを使用して指定する既存のパーティションのポリシーおよび役割を複製 (クローンを作成) し、-n オプションを使用して指定する名前を使用します。これらのオプションはどちらも c で必要です。このコマンドは、以下を行います。

- Campaign で、管理役割ポリシーとグローバル・ポリシーの両方に管理者の役割を持つ新規 IBM Marketing Software ユーザーを作成します。指定するパーティション名が、自動的にこのユーザーのパスワードとして設定されます。
- 新規 Marketing Platform グループを作成し、新規管理ユーザーをそのグループのメンバーにします。
- 新規パーティション・オブジェクトを作成します。
- ソース・パーティションに関連付けられているすべてのポリシーを複製し、それらを新規パーティションに関連付けます。

- 複製されるポリシーごとに、そのポリシーに関連付けられているすべての役割を複製します。
- 複製される役割ごとに、ソース役割でマップされた方法と同じ方法ですべての機能をマップします。
- 新規 Marketing Platform グループを、役割の複製時に作成される最後のシステム定義の管理役割に割り当てます。デフォルト・パーティション `partition1` を複製する場合、この役割はデフォルトの管理役割 (管理) になります。

オプション

-d *partitionDescription*

オプション。-c と共にのみ使用されます。-list コマンドからの出力に表示される説明を指定します。256 文字以下でなければなりません。説明にスペースが含まれる場合は二重引用符で囲みます。

-g *groupName*

オプション。-c と共にのみ使用されます。ユーティリティーによって作成される Marketing Platform 管理グループの名前を指定します。名前は、Marketing Platform のこのインスタンス内で一意でなければなりません。

定義されない場合、名前はデフォルトの `partition_nameAdminGroup` になります。

-n *partitionName*

-list ではオプションで、-c では必須です。32 文字以下でなければなりません。

-list と共に使用する場合、情報をリストするパーティションを指定します。

-c と共に使用する場合、新規パーティションの名前を指定します。指定するパーティション名は、管理ユーザーのパスワードとして使用されます。パーティション名は、「構成」ページでパーティション・テンプレートを使用して) パーティションを構成したときに付けた名前と一致する必要があります。

-s *sourcePartition*

必須。-c とのみ使用されます。複製されるソース・パーティションの名前。

-u *adminUserName*

オプション。-c と共にのみ使用されます。複製されるパーティションの管理ユーザーのユーザー名を指定します。名前は、Marketing Platform のこのインスタンス内で一意でなければなりません。

定義されない場合、名前はデフォルトの `partitionNameAdminUser` になります。

パーティション名が、自動的にこのユーザーのパスワードとして設定されます。

例

- 以下の特性を持つパーティションを作成します。
 - `partition1` から複製

- パーティション名は `myPartition`
- デフォルト名 (`myPartitionAdminUser`) およびパスワード (`myPartition`) を使用
- デフォルト・グループ名 (`myPartitionAdminGroup`) を使用
- 説明を「`ClonedFromPartition1`」にする。

```
partitionTool -c -s partition1 -n myPartition -d "ClonedFromPartition1"
```

- 以下の特性を持つパーティションを作成します。
 - `partition1` から複製
 - パーティション名は `partition2`
 - ユーザー名 `customerA` を指定し、自動的に割り当てられるパスワード `partition2` を使用
 - グループ名 `customerAGroup` を指定
 - 説明を「`PartitionForCustomerAGroup`」にする。

```
partitionTool -c -s partition1 -n partition2 -u customerA -g customerAGroup -d "PartitionForCustomerAGroup"
```

populateDb

`populateDb` ユーティリティーは、デフォルト (シード) データを Marketing Platform システム・テーブルに挿入します。

IBM Marketing Software インストーラーは、Marketing Platform システム・テーブルに Marketing Platform および Campaign のデフォルト・データを追加できます。しかし、会社の方針でインストーラーによるデータベースの変更が許可されていない場合、またはインストーラーが Marketing Platform システム・テーブルに接続できない場合、このユーティリティーを使用して Marketing Platform システム・テーブルにデフォルト・データを挿入する必要があります。

Campaign の場合、このデータには、デフォルト・パーティションのセキュリティ役割および権限が含まれます。Marketing Platform の場合、このデータには、デフォルトのユーザーとグループ、およびデフォルト・パーティションのセキュリティの役割および権限が含まれます。

構文

```
populateDb -n productName
```

コマンド

```
-n productName
```

デフォルト・データを Marketing Platform システム・テーブルに挿入します。有効な製品名は Manager (Marketing Platform の場合) および Campaign (Campaign の場合) です。

例

- Marketing Platform デフォルト・データを手動で挿入します。

```
populateDb -n Manager
```

- Campaign デフォルト・データを手動で挿入します。

```
populateDb -n Campaign
```

restoreAccess

PlatformAdminRole 特権を持つすべてのユーザーが誤ってロックアウトされた場合、または Marketing Platform にログインするすべての機能が失われた場合には、restoreAccess ユーティリティを使用して、Marketing Platform へのアクセスを復元できます。

restoreAccess を使用する場合

restoreAccess は、このセクションで説明されている 2 つの状況下で使用できます。

PlatformAdminRole ユーザーが無効になっている

Marketing Platform で PlatformAdminRole 特権を持つすべてのユーザーが、システム内で無効にされる可能性があります。以下に、platform_admin ユーザー・アカウントがどのように無効になるかを示す例を示します。PlatformAdminRole 権限を持つユーザーが 1 人 (platform_admin ユーザー) だけであるとします。「構成」ページの「一般 | パスワード設定」カテゴリの「許可されるログイン再試行の最大回数」プロパティが 3 に設定されており、platform_admin としてログインを試みているユーザーが間違ったパスワードを連続 3 回入力するとします。このログイン試行の失敗が原因で、platform_admin アカウントはシステム内で無効になります。

この場合、restoreAccess を使用すると、Web インターフェースにアクセスせずに、PlatformAdminRole 権限を持つユーザーを Marketing Platform システム・テーブルに追加することができます。

このように restoreAccess を実行すると、このユーティリティは、指定したログイン名とパスワードおよび PlatformAdminRole 権限を持つユーザーを作成します。

指定したユーザー・ログイン名が、Marketing Platform 内に内部ユーザーとして存在する場合、そのユーザーのパスワードは変更されます。

ログイン名 PlatformAdmin および PlatformAdminRole 権限を持つユーザーだけが、例外なくすべてのダッシュボードを管理することができます。そのため、platform_admin ユーザーが無効になっていて、restoreAccess によってユーザーを作成する場合、ログインとして platform_admin を持つユーザーを作成する必要があります。

不適切な NTLMv2 認証構成

構成が不適切な NTLMv2 認証を実装してログインできなくなった場合は、`restoreAccess` を使用して、ログインできるように復元します。

このように `restoreAccess` を実行すると、このユーティリティーは、「Platform | セキュリティー | ログイン方法」プロパティーの値を Marketing Platform に変更します。この変更により、ロックアウトされる前に存在していたユーザー・アカウントを使ってログインできるようになります。オプションで、新規ログイン名およびパスワードを指定することもできます。このように `restoreAccess` ユーティリティーを使用する場合は、Marketing Platform が配置されている Web アプリケーション・サーバーを再始動する必要があります。

パスワードに関する考慮事項

`restoreAccess` を使用する際は、パスワードに関する以下の点に注意してください。

- `restoreAccess` ユーティリティーでは空のパスワードがサポートされておらず、パスワード規則は適用されません。
- 使用中のユーザー名を指定すると、そのユーザーのパスワードはユーティリティーによってリセットされます。

構文

```
restoreAccess -u loginName -p password
```

```
restoreAccess -r
```

コマンド

-r

-u *loginName* オプションを指定せずに使用した場合は、「IBM Marketing Platform | セキュリティー | ログイン方法の詳細」プロパティーの値を Marketing Platform にリセットします。有効にするには Web アプリケーション・サーバーを再始動する必要があります。

-u *loginName* オプションとともに使用すると、PlatformAdminRole ユーザーが作成されます。

オプション

-u *loginName*

PlatformAdminRole 権限を持ち、指定されたログイン名のユーザーを作成します。

-p オプションとともに使用する必要があります。

-p *password*

作成するユーザーのパスワードを指定します。 **-u** で必要です。

例

- PlatformAdminRole 権限を持つユーザーを作成します。ログイン名は `tempUser` で、パスワードは `tempPassword` です。

```
restoreAccess -u tempUser -p tempPassword
```

- ログイン方法の値を「IBM Marketing Platform」に変更し、PlatformAdminRole 特権を持つユーザーを作成します。ログイン名は tempUser で、パスワードは tempPassword です。

```
restoreAccess -r -u tempUser -p tempPassword
```

scheduler_console_client

IBM Marketing Software スケジューラーで構成されるジョブがトリガーを listen するようにセットアップされている場合、このユーティリティによってジョブを リストし、開始することができます。

SSL が有効な場合の実行内容

SSL を使用するように Marketing Platform Web アプリケーションが構成されている場合、scheduler_console_client ユーティリティが使用する JVM は、Marketing Platform が配置されている Web アプリケーション・サーバーが使用する SSL 証明書と同じ SSL 証明書を使用する必要があります。

SSL 証明書をインポートするには以下の手順を実行します。

- scheduler_console_client によって使用される JRE の場所を判別します。
 - JAVA_HOME がシステム環境変数として設定されている場合、それが指す JRE が、scheduler_console_client ユーティリティによって使用される JRE です。
 - JAVA_HOME がシステム環境変数として設定されていない場合、scheduler_console_client ユーティリティは、Marketing Platform インストールの tools/bin ディレクトリーにある setenv スクリプトかコマンド・ラインのいずれかで設定される JRE を使用します。
- Marketing Platform が配置されている Web アプリケーション・サーバーが使用する SSL 証明書を scheduler_console_client が使用する JRE にインポートします。

Sun JDK には、証明書のインポートに使用できる keytool というプログラムが含まれています。このプログラムについて詳しくは、Java の資料を参照してください。あるいは、プログラムを実行するときに -help を入力してヘルプにアクセスしてください。

- テキスト・エディターで tools/bin/schedulerconsoleclient ファイルを開いて、以下のプロパティーを追加します。これらは、Marketing Platform が配置されている Web アプリケーション・サーバーに応じて異なります。
 - WebSphere の場合、以下のプロパティーをファイルに追加します。

```
-Djavax.net.ssl.keyStoreType=JKS
```

```
-Djavax.net.ssl.keyStore="鍵ストア JKS ファイルへのパス"
```

```
-Djavax.net.ssl.keyStorePassword="鍵ストア・パスワード"
```

```
-Djavax.net.ssl.trustStore="トラストストア JKS ファイルへのパス"
```

- Djavax.net.ssl.trustStorePassword="トラストストア・パスワード"
- DisUseIBMSSLSocketFactory=false
- WebLogic の場合、以下のプロパティをファイルに追加します。
 - Djavax.net.ssl.keyStoreType="JKS"
 - Djavax.net.ssl.trustStore="トラストストア JKS ファイルへのパス"
 - Djavax.net.ssl.trustStorePassword="トラストストア・パスワード"

証明書が一致しない場合、Marketing Platform ログ・ファイルに以下のようなエラーが入ります。

原因: sun.security.provider.certpath.SunCertPathBuilderException: 要求されているターゲットへの有効な証明書パスが見つかりません (Caused by: sun.security.provider.certpath.SunCertPathBuilderException: unable to find valid certification path to requested target)

前提条件

Marketing Platform がインストール、配置、および実行されている必要があります。

構文

```
scheduler_console_client -v -t trigger_name user_name
```

```
scheduler_console_client -s -t trigger_name user_name
```

コマンド

-v

指定されたトリガーを listen するように構成されているスケジューラー・ジョブをリストします。

-t オプションとともに使用する必要があります。

-s

指定されたトリガーを送信します。

-t オプションとともに使用する必要があります。

オプション

-t *trigger_name*

スケジューラーで構成されるトリガーの名前。

例

- トリガー trigger1 を listen するように構成されているジョブをリストします。

```
scheduler_console_client -v -t trigger1 myLogin
```

- トリガー trigger1 を listen するように構成されているジョブを実行します。

```
scheduler_console_client -s -t trigger1 myLogin
```

第 13 章 Marketing Platform SQL スクリプト

このセクションでは、Marketing Platform システム・テーブルに関する各種タスクを実行するための Marketing Platform で提供されている SQL スクリプトについて説明します。

Marketing Platform SQL スクリプトは、Marketing Platform インストールの下の db ディレクトリーにあります。

それらのスクリプトは、データベース・クライアントを使用して Marketing Platform システム・テーブルに対して実行されるように設計されています。

ManagerSchema_DeleteAll.sql

Manager_Schema_DeleteAll.sql スクリプトは、テーブルそのものは削除せずに Marketing Platform システム・テーブルからすべてのデータを削除します。このスクリプトは、すべてのユーザー、グループ、セキュリティー資格情報、データ・フィルター、および構成設定を Marketing Platform から削除します。

ManagerSchema_DeleteAll.sql を使用する場合

破損データによって Marketing Platform のインスタンスが使用できない場合に、ManagerSchema_DeleteAll.sql を使用することもできます。

追加要件

ManagerSchema_DeleteAll.sql の実行後に Marketing Platform を使用可能にするには、以下のステップを実行する必要があります。

- populateDB ユーティリティーを実行します。 populateDB ユーティリティーは、デフォルトの構成プロパティー、ユーザー、役割、およびグループを復元しますが、初期インストール後に作成またはインポートしたユーザー、役割、およびグループは復元しません。
- config_navigation.xml ファイルとともに configTool ユーティリティーを使用してメニュー項目をインポートします。
- いずれかのインストール後構成 (データ・フィルターの作成や LDAP サーバーまたは Web アクセス制御プラットフォームとの統合など) を実行している場合、これらの構成を再実行する必要があります。
- 既存のデータ・フィルターを復元する場合、最初に作成された XML を使用してデータ・フィルターを指定し、datafilteringScriptTool ユーティリティーを実行します。

ManagerSchema_PurgeDataFiltering.sql

ManagerSchema_PurgeDataFiltering.sql スクリプトは、データ・フィルター・テーブルそのものは削除せずに Marketing Platform システム・テーブルからすべてのデータ・フィルター・データを削除します。このスクリプトは、すべてのデータ・フィルター、データ・フィルター構成、オーディエンス、およびデータ・フィルターの割り当てを Marketing Platform から削除します。

ManagerSchema_PurgeDataFiltering.sql を使用する場合

Marketing Platform システム・テーブルから他のデータは削除せずにすべてのデータ・フィルターを削除する場合に、ManagerSchema_PurgeDataFiltering.sql を使用することもできます。

重要: 「デフォルトのテーブル名」および「デフォルトのオーディエンス名」という 2 つのデータ・フィルター・プロパティの値は

ManagerSchema_PurgeDataFiltering.sql スクリプトによって再設定されません。使用するデータ・フィルターでこれらの値が無効になった場合、「構成」ページでこれらの値を手動で設定する必要があります。

システム・テーブルを作成する SQL スクリプト

会社の方針でインストーラーを使用して Marketing Platform システム・テーブルを自動で作成することが許可されていない場合、以下の表で説明されているスクリプトを使用して手動で作成します。

スクリプトは、示されている順序で実行する必要があります。

表 21. システム・テーブルを作成するスクリプト

データ・ソース・タイプ	スクリプト名
IBM DB2	<ul style="list-style-type: none">ManagerSchema_DB2.sql <p>マルチバイト文字 (例えば、中国語、日本語、または韓国語) をサポートする予定の場合、ManagerSchema_DB2_unicode.sql スクリプトを使用します。</p> <ul style="list-style-type: none">ManagerSchema_DB2_CeateFKConstraints.sqlactive_portlets.sql
Microsoft SQL Server	<ul style="list-style-type: none">ManagerSchema_SqlServer.sqlManagerSchema_SqlServer_CeateFKConstraints.sqlactive_portlets.sql
Oracle	<ul style="list-style-type: none">ManagerSchema_Oracle.sqlManagerSchema_Oracle_CeateFKConstraints.sqlactive_portlets.sql

スケジューラー機能 (事前に定義された間隔でフローチャートを実行するように構成することができる) を使用する予定の場合、この機能をサポートするテーブルを

作成する必要もあります。スケジューラー・テーブルを作成するには、以下の表の説明に従って、該当するスクリプトを実行します。

表 22. IBM Marketing Software スケジューラーを使用可能化するスクリプト

データ・ソース・タイプ	スクリプト名
IBM DB2	quartz_db2.sql
Microsoft SQL Server	quartz_sqlServer.sql
Oracle	quartz_oracle.sql

システム・テーブル作成スクリプトを使用する場合

インストーラーによるシステム・テーブルの自動作成を可能にしていない場合、または `ManagerSchema_DropAll.sql` を使用してすべての Marketing Platform システム・テーブルをデータベースから削除した場合、Marketing Platform をインストールまたはアップグレードするときに、これらのスクリプトを使用する必要があります。

ManagerSchema_DropAll.sql

`ManagerSchema_DropAll.sql` スクリプトは、すべての Marketing Platform システム・テーブルをデータベースから削除します。このスクリプトは、すべてのテーブル、ユーザー、グループ、セキュリティー資格情報、および構成設定を Marketing Platform から削除します。

注: 以前のバージョンの Marketing Platform システム・テーブルが含まれているデータベースに対してこのスクリプトを実行する場合、制約が存在しないことを示すエラー・メッセージをデータベース・クライアントで受け取る可能性があります。これらのメッセージは無視してかまいません。

ManagerSchema_DropAll.sql を使用する場合

引き続き使用するテーブルが他に含まれているデータベースにシステム・テーブルがある Marketing Platform のインスタンスをアンインストールした場合に、`ManagerSchema_DropAll.sql` を使用することができます。

追加要件

このスクリプトの実行後に Marketing Platform を使用可能にするには、以下のステップを実行する必要があります。

- 適切な SQL スクリプトを実行し、システム・テーブルを再作成します。
- `populateDB` ユーティリティを実行します。 `populateDB` ユーティリティを実行すると、デフォルトの構成プロパティ、ユーザー、役割、およびグループが復元されますが、初期インストール後に作成またはインポートしたユーザー、役割、およびグループは復元されません。
- `config_navigation.xml` ファイルとともに `configTool` ユーティリティを使用してメニュー項目をインポートします。

- いずれかのインストール後構成 (データ・フィルターの作成や LDAP サーバーまたは Web アクセス制御プラットフォームとの統合など) を実行している場合、これらの構成を再実行する必要があります。

第 14 章 Marketing Platform のアンインストール

Marketing Platform アンインストーラーを実行して、Marketing Platform をアンインストールします。Marketing Platform アンインストーラーを実行すると、インストール・プロセスの間に作成されたファイルが削除されます。例えば、構成ファイル、インストーラーの登録情報、およびユーザー・データなどのファイルがコンピューターから削除されます。

このタスクについて

IBM Marketing Software 製品をインストールする際、アンインストーラーが `Uninstall_Product` ディレクトリーに組み込まれます。`Product` は、IBM 製品の名前です。Windows の場合、「コントロール パネル」の「プログラムの追加と削除」リストへのエントリーの追加も行われます。

アンインストーラーを実行する代わりにインストール・ディレクトリーからファイルを手動で削除すると、後で IBM 製品を同じ場所に再インストールする場合にインストールが不完全になってしまう可能性があります。製品をアンインストールしても、そのデータベースは削除されません。アンインストーラーは、インストール中に作成されたデフォルト・ファイルのみを削除します。インストール後に作成または生成されたファイルはいずれも削除されません。

注: UNIX の場合、Marketing Platform をインストールしたものと同一ユーザー・アカウントがアンインストーラーを実行する必要があります。

手順

1. Marketing Platform Web アプリケーションを配置した場合、WebSphere または WebLogic からその Web アプリケーションを配置解除します。
2. WebSphere または WebLogic をシャットダウンします。
3. Marketing Platform に関連するプロセスを停止します。
4. 製品インストール・ディレクトリーに `ddl` ディレクトリーが既存である場合、その `ddl` ディレクトリーに用意されているスクリプトを実行して、システム・テーブル・データベースからテーブルを削除します。
5. 以下のいずれかの手順を実行して Marketing Platform をアンインストールします。
 - `Uninstall_Product` ディレクトリー内に存在する Marketing Platform アンインストーラーをクリックします。アンインストーラーは、Marketing Platform をインストールする際に使用したモードで実行します。
 - コンソール・モードを使用して Marketing Platform をアンインストールする場合は、コマンド・ライン・ウィンドウで、アンインストーラーが存在するディレクトリーにナビゲートして、次のコマンドを実行します。

```
Uninstall_Product -i console
```

- サイレント・モードを使用して Marketing Platform をアンインストールする場合は、コマンド・ライン・ウィンドウで、アンインストーラーが存在するディレクトリーにナビゲートして、次のコマンドを実行します。

Uninstall_Product -i silent

サイレント・モードを使用して Marketing Platform をアンインストールする場合、アンインストール・プロセスでは、ユーザーとの対話用のダイアログが表示されません。

注: Marketing Platform のアンインストールに関するオプションを指定しなかった場合、Marketing Platform アンインストーラーは、Marketing Platform のインストール時に使用されたモードで実行されます。

IBM 技術サポートへのお問い合わせの前に

資料を調べても解決できない問題に遭遇した場合、貴社の指定の窓口担当者は IBM 技術サポートとの通話を記録することができます。問題を効率的かつ正しく解決するために、以下のガイドラインを使用してください。

貴社の指定の窓口担当者でない方は、社内の IBM 管理者にお問い合わせください。

注: 技術サポートは、API スクリプトの書き込みまたは作成を行いません。API オファリングの実装で支援が必要な場合は、IBM 専門サービスにお問い合わせください。

収集する情報

IBM 技術サポートへのお問い合わせの前に、以下の情報をご用意ください。

- 問題の性質についての簡単な説明。
- 問題が生じたときに表示される詳細なエラー・メッセージ。
- 問題を再現するための詳しい手順。
- 関連するログ・ファイル、セッション・ファイル、構成ファイル、およびデータ・ファイル
- 製品およびシステム環境に関する情報 (この情報は「システム情報」の説明に従って取得できます)。

システム情報

IBM 技術サポートにお問い合わせいただいた際に、お客様の環境に関する情報の提供をお願いすることがあります。

問題がログインの妨げになっていない場合、この情報の多くは「バージョン情報」ページから得られます。このページでは、インストール済みの IBM アプリケーションに関する情報が提供されています。

「バージョン情報」ページにアクセスするには、「ヘルプ」>「バージョン情報」を選択します。「バージョン情報」ページにアクセスできない場合、`version.txt` ファイルをご確認ください。このファイルはアプリケーションのインストール・ディレクトリの下にあります。

IBM 技術サポートの連絡先情報

IBM 技術サポートへのお問い合わせ方法については、IBM 製品技術サポート Web サイト (http://www.ibm.com/support/entry/portal/open_service_request) を参照してください。

注: サポート要求を入力するには、IBM アカウントを使用してログインする必要があります。このアカウントは IBM カスタマー番号とリンクしていなければなりません。

せん。アカウントを IBM カスタマー番号に関連付ける方法については、サポート・ポータル[の「サポート・リソース」](#) > [「ライセンス付きソフトウェア・サポート」](#)を参照してください。

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒103-8510

東京都中央区日本橋箱崎町19番21号

日本アイ・ビー・エム株式会社

法務・知的財産

知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation
B1WA LKG1
550 King Street
Littleton, MA 01460-1250
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができませんが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性がありますが、その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

表示されている IBM の価格は IBM が小売り価格として提示しているもので、現行価格であり、通知なしに変更されるものです。卸価格は、異なる場合があります。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式

においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。これらのサンプル・プログラムは特定物として現存するままの状態を提供されるものであり、いかなる保証も提供されません。IBM は、お客様の当該サンプル・プログラムの使用から生ずるいかなる損害に対しても一切の責任を負いません。

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

商標

IBM、IBM ロゴおよび [ibm.com](http://www.ibm.com) は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corp. の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、<http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml> をご覧ください。

プライバシー・ポリシーおよび利用条件に関する考慮事項

サービス・ソリューションとしてのソフトウェアも含めた IBM ソフトウェア製品（「ソフトウェア・オファリング」）では、製品の使用に関する情報の収集、エンド・ユーザーの使用感の向上、エンド・ユーザーとの対話またはその他の目的のために、Cookie はじめさまざまなテクノロジーを使用することがあります。Cookie とは Web サイトからお客様のブラウザーに送信できるデータで、お客様のコンピューターを識別するタグとしてそのコンピューターに保存されることがあります。多くの場合、これらの Cookie により個人情報が収集されることはありません。ご使用の「ソフトウェア・オファリング」が、これらの Cookie およびそれに類するテクノロジーを通じてお客様による個人情報の収集を可能にする場合、以下の具体的事項をご確認ください。

このソフトウェア・オファリングは、展開される構成に応じて、セッション管理、お客様の利便性の向上、または利用の追跡または機能上の目的のために、それぞれのお客様のユーザー名、およびその他の個人情報を、セッションごとの Cookie および持続的な Cookie を使用して収集する場合があります。これらの Cookie は無効にできますが、その場合、これらを有効にした場合の機能を活用することはできません。

Cookie およびこれに類するテクノロジーによる個人情報の収集は、各国の適用法令等による制限を受けます。この「ソフトウェア・オファリング」が Cookie およびさまざまなテクノロジーを使用してエンド・ユーザーから個人情報を収集する機能を提供する場合、お客様は、個人情報を収集するにあたって適用される法律、ガイドライン等を遵守する必要があります。これには、エンド・ユーザーへの通知や同意取得の要求も含まれますがそれらには限られません。

お客様は、IBMの使用にあたり、(1) IBM およびお客様のデータ収集と使用に関する方針へのリンクを含む、お客様の Web サイト利用条件（例えば、プライバシー・ポリシー）への明確なリンクを提供すること、(2) IBM がお客様に代わり閲覧者のコンピューターに、Cookie およびクリア GIF または Web ビーコンを配置

することを通知すること、ならびにこれらのテクノロジーの目的について説明すること、および(3) 法律で求められる範囲において、お客様または IBM が Web サイトへの閲覧者の装置に Cookie およびクリア GIF または Web ビーコンを配置する前に、閲覧者から合意を取り付けること、とします。

このような目的での Cookie を含む様々なテクノロジーの使用の詳細については、IBM の『IBM オンラインでのプライバシー・ステートメント』(<http://www.ibm.com/privacy/details/jp/ja/>) の『クッキー、ウェブ・ビーコン、その他のテクノロジー』を参照してください。



Printed in Japan

日本アイ・ビー・エム株式会社

〒103-8510 東京都中央区日本橋箱崎町19-21